

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	本山 大輔

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、キリスト教の規範である聖書の成り立ち、特に新約聖書について理解を深めることを目的として行った。イエスの言行録である4つの福音書の差異を確認することで、聖書にある多様性について確認した。新約聖書は古代価値観でなく、現代においても通用する価値観があることを知ることで、現代社会における課題、戦争、貧困、環境破壊、和解、共生といった事柄について新約聖書がどのようなアプローチをしているかを学んだ。授業内で多くのワークショップを用いることにより、体験的に聖書を学ぶことへの取り組みも行い、知識的に理解するだけでなく、体験的に理解することを促した。また、コミュニケーションの向上は管理栄養士になっていく上で必要なスキルであると考え、ワークショップではコミュニケーションを取ることが必要とされたことで、多様な人びととどのような関わり、話し合い、物事に取り組むかの経験値を積み重ねることに心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績平均値は77であり、多くの受講生が、積極的にこの授業に参画し、学んだ証しである。しかしながら、チャペル出席、教会訪問レポートなど必須の取り組みについて怠るという事象が発生し、再履修しなければならない者も数名出た。授業アンケートに関しては知識理解は4.1ポイント、事象についても4.2ポイント、自己達成度3.9ポイントであり、本講義によってキリスト教に関して知識を得たことは明白である。専門分野との関係性においては3.9ポイント前後となっており、栄養学とキリスト教の関わりについて見出すことが困難であったことが分かる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、本学の建学であるキリスト教について学ぶ必須科目である。キリスト教に関心を持って受講した生徒は全体の5%しかない。このことから、キリスト教について学ぶ必要性、キリスト教を学ぶことと専門分野への関連性について、明確化していく取り組みが必要とされている。加えて、本講義はチャペル出席と関連付けられており、チャペルの中でも栄養学とキリスト教の関わりが語られることが望ましい。このように、受講生のキリスト教への関心をより高めていくことに一定の課題が見受けられるが、受講生の多くが一定以上の成績を収めており、授業の内容としては適切であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 自由記述の中に、関してはほとんど授業についての言及がない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価として、(1)～(4)に関しては4.0ポイント前後であり、授業全体において平均的に高い評価を受けていることが分かる。座学とワークショップ、またクラスポートフォリオによる自分の意見をまとめる時間、担当者への質問の時間を持ったことがこのような評価に繋がったと考えられる。一方で、授業の準備においては、8割近い受講生が、予習の時間を設けていなかったと返答している。本講義においては、次回の授業について準備や発表の時間を設けることがなかったの必然的にそのような評価になったと考えられる。加えて、担当者が、受講生に対してこの講義について自己で学ぼうとする意識の醸成ができなかったとも言える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本学の精神を学び、西南女学院の学生として、大切にしなければならない価値観を新約聖書から学び、基本的キリスト教の知識を得ることについては概ね達成できたと考えられる。本講義内ではほぼ毎回到渡ってアクティブラーニングを取り入れていたために、受講生同士もコミュニケーションする機会が増え、管理栄養士になっていくあたり必須スキルである、コミュニケーションスキルの向上も果たしたとも言える。受講生同士のコミュニケーションは多かったが、担当者と受講生の間には、十分な会話がなかった。担当者が一方的に話す講義形式から抜け出られていない。栄養学とキリスト教の関わりは本来深いものがあるが、そのことについて十分に伝えきれなかったことも課題である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。 これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探索していく姿勢をもたなければならない。 本授業は、初年次セミナーⅠおよびⅡで構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とする。 初年次セミナーⅡでは、『初年次セミナーⅠ』の学びを基礎として、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズ『発表する』『討論する』を強化し、より一層、主体的かつ能動的学習を展開している。基本的スキル（聞く・調べる・読む・書く・考える）の強化ならびに定着を図り、さらに、プレゼンテーションに発展させる。また、グループ内での討論を通して、物事を多面的・多角的に捉えて思考する力を身につけ、それらの考えを相手に分かりやすく伝える力を身につけることができるようにサポートを行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は82.0(±4.0)点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。 全員標準的レベル以上(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は35名(77.8%)であった。 「自己達成度」は平均値が全項目で3.5～4.0の間(中央値4)にあったが、予習、復習の課題がないため授業以外の取り組みは43.9%(18名/41名)の学生が何もしていなかった。 シラバスの情報を参考にした者58.5%（24名/41名）、あらかじめ授業の計画を立てた者48.8%（20名/41名）であった。 本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、更には管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。さらには、自発的学習へ繋がり、定着することが重要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲感心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価については、平均値が3.8～4.3であったことから、授業の進め方は良好と考える。 しかし、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ34.1%14名/41名)、43.9% (18名/41名) いた。 また授業の課題以外の学習に取り組んでいなかった学生も65.9%(27名/41名)と非常に多く、その理由として、「何をしたいかわからなかった」、「他の課題で忙しかった」、「特にすることがなかった」の意見が多かったことから、学習への動機付けが重要と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実習、ゼミ、更には修飾語も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、充実した内容に進化したい。 本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの協力的作業等を通して、「学生間の仲間づくり」、「学生間の信頼関係」、「個性と役割分担」「教員との一体感」、「教員のふれあい」等等、様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義ではえられない「学生と学科教育」に重要な時間を当てることができたと考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者は、学期の始講と最終講に体力測定と体組成の測定を行ない、授業の運動量と身体組成や健康度との関係の把握を体験させる。 ②実技中は受講生にカロリーカウンターを貸し出し、各授業時間の運動量（歩数、カロリー）を記録し、運動量と消費カロリーの把握させる。 ③始業から3回の講義時間を「筋力トレーニングの方法とトレーニング機器の使い方」、「持久性トレーニングの方法と心拍数を基準とした運動強度設定」、「ストレッチ体操の方法と実用」について講習を行い、授業外に、また生涯にわたり自ら運動を処方できるよう計画した。 ④各受講者は毎授業時にカロリーカウンターを装着し、目標を持って授業に望む様に促し、自己の運動量の把握することで、運動意欲を喚起する。 ⑤①および②について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるようにする。 ⑥生涯スポーツではチームのメンバーを種目毎に入れ替え、多数の人とコミュニケーションを取れるよう図った。チームミーティングを各試合前後に行わせ、チーム戦略立案、各自の役割、チーム員としてのポジティブな行動を実践させる。また、試合後のミーティングで改善点(課題)などをまとめ記録し、そのフィードバックの成果を実感し、チームで活動する意義を考えさせる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均90（SD4.0）再試対象者0人、80点以上11名（11名中）。途中履修放棄2名おり教職資格科目と総合的な判断がある。単位取得した学生は科目の目標を達していた。 受講動機；資格取得目的70%、興味関心20%、単位確保30%、GPA向上10% →興味関心で受講を決めた学生が少ない。栄養学科を目指す動機と関連しているか 達成度の自己評価；平均3.1～4.6（4.0以上4項目/10）、高評価、自己目標の達成感を持った学生10名（10名中、100%）と高い。とくにコミュニケーション力高評価。 授業の質；平均3.2～3.9（4.0以上0項目/5）、中評価といえる。プレゼンと討論の能力の育成を加えたい。 学習量；授業外学習が殆どない。授業時に学習記録、運動記録、試合記録を行なっているので、完結した形になっている。学習の工夫の必要性がある。 情報利用；シラバスを参考にしていない。シラバスの充実が必要。 図書館の利用；図書館、インターネットともに利用が低い。学習方法など調べて実行する課題が必要。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識であり、また、生活信念、健康志向、美容的自己管理に関わりのある科目内容と考える。受講生は興味関心から科目を選び、高い成績を収めていたことから、妥当な内容と考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高いので、もう少し内容を深く進めることができると考える。 ③受講動機で内容に関心がある学生が多いが、「受講動機」が曖昧な学生も存在する中、「学習到達度の自己評価」は10名（10人中）が達成できたと考えており、本科目が妥当な内容と思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、予習を全くしなかった者が9名（10名中）であった。 毎回授業で健康への関心が高まっていれば幸いである。 シラバスを参考にした者が6名（10名中）、授業計画を立てなかった者が4名であった。シラバスの利用者は6名と多くない。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習量の評価において、予習を全くしなかった者が9名（10名中）であった。 毎回授業で健康への関心が高まって健康的な生活を取り入れてほしい。 シラバスを参考にした者が6名（10名中）、授業計画を立てなかった者が6名であった。シラバスの利用者が少ない。 学生が健康へ興味を持って、生涯につながるスポーツライフの必要性を意識できる話題や内容を加味していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。中学高校までの歴史の授業で得た知識を反芻することが授業準備になることを確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。最後の授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。特に重要なポイントについては、各授業の課題を各自で振り返ることにより理解を深めるよう勧めた。授業評価では、授業後にネットで調べて考えた学生も存在した。試験の結果からみると、ポイントはおおむね理解している層が厚いものの理解不足の学生も一定数いることが確認された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画、雑誌で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で製作者の意図を考えさせた。おおむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。複数学科で受講しており人数が多いため、双方向のやりとりが困難であることが昨年度の課題であった。今年度は、適宜、前回の授業課題レポートを取り上げ、コメントする時間をもった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち根深い固定的性別役割分担意識のその原因である家父長制であることについて考えさせることができ、実感を伴いながら知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の家父長制が根付いた経緯を古代・中世までさかのぼりつつ、世界史的な家父長制の歴史にも触れてその普遍性への理解を深め、現在の国際的なジェンダー平等の現状から日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	文学という学問がなぜ我々に必要なのか、という問いかけに始まり、文学が実学であることの意義、また学生たちがそれぞれ目指す専門とのかかわりについて重ねて鑑み、自身のアイデンティティと切り離せないものであることをまずは、学ぶ。講義はそこからスタートする。そういったことをベースにして小説、物語、歴史書、古典、映画を見て感動することは即ち自分自身の人生を客観的に眺めていることと同一線上にあるゆえに、人間が生きてゆくための原動力となる探求心や想像力、感動する心を育てるエキスを満たしたことを基軸に据えて、文学を通して、自身の生きてきた道をフィードバックすることにより、大切な知識を取得することを主眼とする。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	総合評価としては80パーセントまでは伸びていると思われる。着実に受け取って成長している。この内訳を説明するならば、講義終了後に出す課題に対する解答から、どれほど内容を習得しているかが如実にわかるわけで、その評価をこの様に示したわけである。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけから見た妥当性については、75パーセントから80パーセントは活かされていると思われる。文学という学問がなぜ我々に必要なのかという事の理解度は、内容的妥当性と深く関係するものであるから、そういった視点で鑑み、学生の感想文から評価したパーセンテージである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	改善策としては座学だけではなく、文学の諸問題に対して一人一人の意見も皆の前で発言できるような講義の在り方を工夫してみたいとも思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、80パーセントは活かされていると思われるので、さらなる向上を目指したく思う。状況の総括的評価は、課題に取り組むレポートの内容に比例していて、文学が実学であることの理解認識が向上していると評価したからである。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は19名（回答率67.9%）であった。受講動機を見ると、「単位数を確保する」57.9%、「資格取得に必要である」47.4%、「関心のある内容である」26.3%であった。教職必修科目であり、栄養教諭志望の学生が履修者の一定割合を占めていると思われる。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	今年度の成績評価は昨年度と同様に、授業中の確認テスト、コメントおよび後期終了時のレポートを用いた。素点の平均点は72.08点であった。不可と評価した者は3名（ほか出席数不足の学生が5名）、理想的レベル（90点以上）に達した者は2名であった。 学生による到達度自己評価については、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.0、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」の平均値がいずれも3.9であった。他の項目の平均値も3.7-3.3の間にあった。昨年度とほぼ同様の数値を示している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。加えて、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。 よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値はともに4.1、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値が4.0、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が3.9であった。全体的に昨年度より数値が上昇している。 講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は15名、復習を全くしなかった学生は14名であり、割合としてはやや上昇しているものの履修者の半数が予習・復習をしていないことになる。今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。また、授業の課題以外の学習に取り組まなかった学生は16名、取り組んだ学生は3名であった。授業以外に学習していない理由として「時間がなかったため」、「する内容がわからなかった」、「授業で十分だと感じた」などの記述が見られた。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習については、「ネットで調べた」、「プリントを見返した」などの記述がみられた。 学生からは、「後期お世話になりました」とのコメントがあった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養としての、基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	若菜 啓孝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度は別の教員が担当していたため、最初の授業展開であったが、科目構成上苦労した点が多い。この授業は、データリテラシー、数量的スキル向上の観点から表計算ソフト Microsoft Excel を中心に、基本的な使い方の復習から、数式・関数を用いた計算、条件分岐処理などの高度な使い方までを習得するのが目標となっていたが、数式・関数を用いた計算が苦手な学生が多く、基本的な事項の復習に時間をかけ、多くの例題を演習させた。そのため、わかりやすいレポート・プレゼンテーション資料作成方法に関しては、時間がとれなかった。 また、2年前期の授業に繋げるためのものとして考えていたが、教職系の科目と時間割が重なっていたことや苦手な学生の数名が受講していなかったこともあり、科目上の位置づけなど難しく思われた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない				どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達目標に対しては、殆どの学生がB、Cレベルである。授業内の練習問題は熟すが、応用的な課題提出物にいたっては力不足の学生が多く見られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上では相違ないが、前述のような時間割配置だと授業展開の意味が薄れていく。すなわち、次年度前期の授業の中で、単なる復習ではなく多くの時間を費やし説明しなければならない。学生個々が高校時代にどれだけの学習内容を熟していたのかにより意見も変わるため内容に関しては難しいものがあるが、専門科目への繋がりを考慮した場合、全員の履修が望まれる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方が難しい科目であった。遅れすぎず、すすめ過ぎずで展開したつもりであるが、課題の提出状況からは、結果的には半数の学生が追いついてなかったように思われる。Padletを使い、学修に必要な情報を整理させたが、個人差が大きかったように思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的な評価としては、あまり満足したものではない。ただし、課題提出に単なる解答だけではなく、自分にわかるようなコメントをつけさせた点や授業の総括としてPadletを利用した一種のポートフォリオ作成させたことは、今後の授業展開のひとつの方法であることが見出された。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	ほとんどの学生の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では3つの項目についてそれぞれ1, 2名の学生が「少しそうでないと思う」と回答しているのを除いては、肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだこととこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。☑					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、3年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が全ての項目について肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について、若干名の学生が否定的に回答している。200名を超える受講生であったため、学生が発言する機会を作ることが難しく、アプリ等を使って学生が自分の考え等を授業中に表明できるように工夫した。また、受講生が多いので、授業中に質問しにくいことが考えられたので、Googleフォームで質問を受け付けるようにし、次の授業で解答するようにしていた。これらの工夫が伝わっていなかった可能性もあるので、毎回注意を促したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。ICT等の活用は一定の成果があったと思われるが、課題もあるので、今後も研究したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、当初九州歯科大学・西日本工業大学との合同で行われたため、口腔衛生やバリアフリーなどの分野も含まれたが、近年は、福祉分野（看護・福祉・栄養）の専門性と特徴を活かしつつ、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法等について学修することを目的としている。 授業は、2日間の集中講義で、看護・福祉・栄養学科の合同で行われた。初日は講義、2日目にはグループワーク形式で演習が行われた。いずれも対面授業であった。 受講動機は、「単位数の確保」との回答が53.8%で最も多く、「関心のある内容」として興味を示した者は、38.5%であった。 専門分野の異なる他学科の教員による連携集中講義であるため、予習を効果的に行うことは難しいと推察された。 次年度は、看護・福祉・栄養に特化しさらに学生にわかりやすい講義の進め方やレジュメの改善を図りたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は86.3±6.3点であった。理想的レベル（概ね80点以上）に達していた。 達成度自己評価の平均値は3.5～3.8点、中央値が4.0点であった。①自分なりの目標を達成したの平均値と中央値は、3.7、4.0点、②知識の確認・修正・新たな知見を得たは、3.8、4.0点、③事象を理解する考え方は、3.8、4.0点、④課題を検討する力は、3.7、4.0点、⑤的確に判断する力は、3.7、4.0点、⑥学びを深めたい意欲は、3.7、4.0点、⑦必要とする技術を身に着けるは、3.7、4.0点、⑧コミュニケーションや表現力を高めた3.7、4.0点、⑨職業倫理・行動規範は、3.5、4.0点、⑩職業選択の参考は、3.5、4.0点であった。 昨年に比べ、自己評価点が低下している傾向であった。 授業形態がPBL形式であるため、学生が主体となって自発的に課題の問題を提起し、解決方法を検討していくという学習方法であるため、3学科協働の作業は、新たな知識の習得、コミュニケーションの取り方など、他学科の学生から学ぶことが多く刺激となっていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、学生による授業評価においては、ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、また、専門分野において課題を検討する力、的確に判断する力、必要となる技術を身に着けることができたとの評価を得ている。成績評価においても、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。 まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価においては、テスト等の評価基準は3.7点、学習の範囲や課題などについては3.6点、理解しやすいものであったか3.5点、話し合い・発表の参加は3.8点、学生の質問に答える機会は3.7点であった。 評価基準や学習課題は明らかであり、また、授業中に学生が参加する機会、学生の質問に答える機会が作られていたと考える。 他学科の学生とともに課題の抽出やその改善方法について討議し、発表しなければならなかったため、個々で積極的に学習し、グループワークにそれを活用し、他分野の学科の学生と協働し意見を交換しながら学びを深めていた。 昨年度に比べ、授業の質評価も低下している傾向であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習到達度の自己評価から、殆どの学生が目標を達成し、新たな知識を得たと回答している。また、学びを深めたいとの回答を得た。 次年度に向け、これらの評価を維持または向上できるよう、学習教材の内容や授業の進め方を検討する。また、学習量の評価においては、事前事後の学習への取り組み状況が改善できるよう、授業内容や配布資料等について引き続き検討を重ねる。 短期集中講義であり、知識を得るための講義時間や情報収集のための時間が短い。そのため、授業の進行方法やグループワークのやり方など、更なる検討が必要であると考ええる。 学力の低下に伴い、達成度自己評価や授業の質評価が低下傾向にあった。今後の課題の1つである。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、ジェンダー平等について説明し女性のキャリア形成を考えるうえでジェンダーの視点が欠かせないことを意識づけした。2回目で、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義で知識を得るだけでなく、外部講師の体験談を盛り込み、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な話を伺ったり、ほかにも子育てに積極的に参画するようになった父親の行動変容の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。今年度は、学生とのやり取りも昨年度より多く取り入れて授業を進めた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、外部講師の話から刺激を受け、自分の関心のあるテーマでは自ら調べる学生もいた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。受講者人数が多いために個別的な対応がすべての学生とはできなかった。昨年度はより多くの学生に個人的な意見を聞くようにしたが、活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学Ⅱは国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解、思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」は90.9%で、「資格取得に必要である」36.4%で、「単位数を確保する」は15.2%で、「関心のある内容である」9.1%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を丁寧に作成し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は77.8（±9.7）点でであった。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していなかった。 ②今回の試験問題は標準問題だったので、予測した成績である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者は100%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必須科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、関心意欲、態度に関しやや達成された。しかしながら、管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.9で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.5であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.6で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として「毎回授業の後に資料や小テストをクラスルームににあげてくださるので、授業を欠席した時でも、すぐに資料を使って勉強できるので助かります」という意見があった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、関心意欲、態度の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返って見たとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	2	後期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学科の教育内容とは異なるものの、生活者として、また将来的に栄養の専門職として人々に関わることや、更に国家試験出題範囲として試験に臨むことを意識して社会福祉、社会保障を身近なこととして理解出来るよう医療・福祉現場での話を取り入れながら講義した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	教科書の読み直し、予復習、インターネットでの調べ学習に取り組み「学びを深めたいと意欲を得ることができた」に自己評価していることは評価できると考える。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」に評価するものがいたことは一部の学生であったとしても評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自由記述から「講義の中で集中した」とする意見があり、学科専門科目に比重がある中でこの科目について授業において関心を持ち学んでくれたものと理解した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	テキストの内容がより理解出来るよう資料などを活用して説明したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成されたと考える。次年度以降、毎回の講義が理解出来たかを確認する方法を取りたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生化学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明してから、その後の講義を進めた。講義は一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。今年度の受験動機は、「必須科目である」94.7%、「資格取得に必要である」28.9%、次いで「単位数を確保する」10.5%であった。一方、「関心のある内容である」は、7.9%で、前年度(2.7%)よりは多少マシであった。生化学を意欲的な動機から受講する学生が少ないのは最初から予想されたことではあったが今後もこの傾向が増していくのは危惧されるところである。 ②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布しているが、今年度もキーワード・キーポイント集を大幅に改訂、増頁して配布あるいはClassroomに掲示した。講義の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。 ③講義に用いるスライドは、以前対面形式用に作成していたものを全面的に見直し、大幅な改訂を加えて用いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	定期試験の平均点は67点、再試験後の不合格者は再履修者を含めた受講者53名中9名(未受験者2名を含む)であり、合格率は、約83%であった。優(80点以上)は17名、そのうち秀(90点以上)は10名であった。昨年同様、成績が高得点と低得点の両極端に分かれる傾向が多く見られた。20名の学生は1回も予習を行っていなかった。復習に関しても16名は1回も行っていなかった。試験問題は、基礎的知識や基礎的な思考力を問う問題を併せて約9割、やや高度な知識や思考力を要する問題を併せて約1割の割合で作成した。基礎問題だけでも十分に合格点を達成できるような問題作成を心掛けた。本年度は受講動機が「関心のある内容である」とした学生の割合が特に低かったにも関わらず、学生の受講態度は、予想に反してかなりまじめであり、かつ意欲的な学生が目立った。しかし論理的に考えたり、理解しようとしたりするよりも丸覚えしようとする学生が多いように見られた。予習復習が少なくても、せめて受講の際、できるだけ理解した上で覚える姿勢を促していきたい。今後は、すべての学生が、せめて講義中だけでも意欲的に学習に取り組むことを促して、全員合格を目指したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。内容的には妥当と考えて講義を行ってきたが、本試験での平均点、合格点共に低かったので、講義中に質問や練習問題などを行い、理解度を確認することに努めたい。 ②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率は低かったが、内容の妥当性が低かったとは考えられない(講義内容は例年通りである)。学生に理解させる工夫は多いに必要であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均点が、3.8であった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表および文章は、毎年見直しと改善を目指した改訂を行っているが、さらなる改善に取り組んでいく必要がある。その一方、学生にも暗記するだけでなく、もう少し理解することも心がけて受講してもらう必要があり、この点を以下に改善していくかを課題として、検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度は、合格率、平均点とも昨年よりは改善した。学生の受講態度自体は、1年生、再履修者ともに全体的に意欲的であり、これはここ2～3年の印象である。講義中に学生に発言させる機会をさらに設けて、学んだ理解したりしたことを説明できる力を伸ばす工夫を行いたい。学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を出来るだけ多く得て、それらを講義にフィードバックしていくために、学生が発言、質問する機会が重要であるとする。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
病理基礎医学	1	後期	必修	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、1年生であり、疾病に対しての具体的な知識や興味はまだ持ち得ていないと考えられる。病理学は疾病の原因や病態を理解する上で基本となる学問であり、医学用語や疾病の概念についてまず理解していくことを目標とした。その上で2年生で学ぶ「疾病診断治療学」へとつなぐために、疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいて授業を進めた。 ②スライド資料を準備し配布した。 ③スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにした。授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。 ④学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるとともに、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。 ⑤毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業中に指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。 学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価において 95%が「自分なりの目標を達成した」と回答しており、授業は概ね理解しやすいものであったと考える。特に、「新たな知識の修得」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」において平均値が高く（3.9点）、基礎的な知識を修得できたことで次年度以降の学びにつなげる準備を整えることができたと考える。また 60%以上の学生がシラバスを活用してあらかじめ授業の計画を立てており、クラス全体の授業中の態度も良好であったことより、主体的に学習に取り組む姿勢を促すことができたと考える。 昨年度と比較して、10項目の到達度のすべてにおいて自己評価が下がっているのは気になる点であり、「かなり到達できた」が減り、「まあまあ到達できた」と考える学生が増えているが、本試験の成績をみると、受験者 43名の平均値は 83.2（±10.1）点、再試験対象者は 43名中 2名であった。同じく 43名が受験した昨年の平均値が 77.2（±12.2）点、再試験対象者が昨年度 43名中 3名であったことと比較すると、平均値で 6点上昇しており、ほとんどの学生は標準的なレベル以上に達したものと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、95%の学生が新たな知識を得ることができ、自分なりの目標をある程度は達成したと考えている。定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的に妥当であったと考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 就職後に医療の現場において必要とされる知識や思考を想定して授業内容を構成した。95%の学生が、課題検討力を得ることができたと肯定的に自己評価しており、内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は、5項目中3項目が平均値 3.9点超であり、授業の説明については 97%が「理解しやすいものであった」と答えている。授業の質評価および到達度自己評価は概ね肯定的であり、92%の学生が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。なお他教科の課題が多いために授業外学習時間を確保することが難しいとの訴えが例年多いため、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させることができるよう工夫している。毎回の授業の最後に確認テストを行い、加えて次の授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだことで、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処することができた。自由記述からも、確認テストを復習することが重要ポイントの理解につながっており、授業で配布した資料を活用しながら授業時間内に理解できるよう努めていることが伺えた。学生の意見として、前回分確認テストを返却するタイミングについて、授業後ではなく授業前がよかったというものがあった。時間的制約はあるが取り入れることを検討したい。本授業の性質上、授業の中で発表する時間をとることは難しいが、事例を取り上げたり、質疑応答の機会を増やしたりすることで、自分の意見をまとめて考える時間を作っていきたい。 以上のことより、双方向性の授業参加を促す工夫を検討するなどの課題はあるものの、授業の質を向上させることはできたと考える。インターネットや図書館を利用した学生が例年少ないことから、今後も出典の確かな正しい情報を選び、正しく活用する調べ学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門基礎科目であり、2年生で学ぶ「疾病診断治療学」につながる科目としての医学的な基礎知識を修得することを目指した。基礎的な内容であるがゆえに実際の臨床と結び付けて考えることが難しいのではないかと考え、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処するために、毎回の授業終了時の確認テストに加えて、授業の初めにも前回授業の復習を組み込んでいる。学ぶべき重要ポイントを理解しやすくなっており、昨年度と比較して本試験の成績が上がった点は、評価できる。学習到達度の自己評価と合わせ、教育目標は概ね達成できたと考える。 課題を課される授業が多いために授業外学習時間を十分に確保することが難しい状況においても、一定数の学生は予習・復習や課題以外の学習に積極的に取り組んでおり、授業の中で復習課題を明示するなど、さらに興味を持って自己学習に取り組むよう学生の意欲関心を高めていきたい。返却物についての学生の意見は、早速取り入れて改善したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前期で学んだ「疾病診断治療学Ⅰ」を基に、管理栄養士として必要な臨床医学の知識および考え方を定着させることを目標とした。チーム医療を担う一員としての医療の現場を想定して、検査機器や疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、医学と食物・栄養との関連についてのイメージを持ちやすくすることに努めた。特に医学および栄養学知識を持つことがいかに大切であるかを身近な問題としてとらえてもらうために、実際に起こった社会問題やニュースなどの事例を紹介し、その原因や予防・改善するための方策について提示するなど、学生の関心を引きつけやすいように工夫した。 ②授業で使用するスライド資料を印刷して配布した。 ③スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにした。また授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。 ④改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。 ⑤学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるとともに、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。 ⑥毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験の成績の平均値は 78.8 (±9.3)点であり、再試験対象者は1名であったことより、ほぼ全員が標準的なレベル以上に達したと考える。 授業においては、指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価において、ほぼ全員が「自分なりの目標を達成した」と回答しており（平均値 3.9点）、授業は概ね理解しやすいものであったと考える。特に、「新たな知識の修得」「事象を理解する考え方の修得」「判断力の修得」において自己評価が高く（平均値 3.9点）、積極的に学習に取り組み学びを深めたことが「職業選択の参考になった」（平均値 3.8点）ものと同え、管理栄養士へのモチベーションを高めることにつながったと考える。 これらのことより、双方向性に授業参加を促したり、個々の理解度に応じてサポートしたりするための方法を工夫するなどの検討課題はあるものの、教育目標は概ね達成されたと考える。 なおシラバスを活用して授業に臨んだ学生は4割にとどまっており、今後は、次回内容を予告的に提示するなどして主体的に授業に参加する準備を促していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、ほぼ全員が、新たな知識を得ることができ、自分なりの目標のある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的に妥当であったと考える。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。ほぼ全員が、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「的確な判断力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業倫理や行動規範を学ぶことができた」と肯定的に自己評価しており、内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は、5項目中3項目が平均値 4.0点超であり、授業の説明については、ほぼ全員が「理解しやすいものであった」と答えている。授業の質評価および到達度自己評価は概ね肯定的であり、ほぼ全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。なお授業の課題以外に自発的に学習に取り組んだ学生は 34%にとどまっているが、自由記述にて、他教科の課題が多いために授業外学習時間を確保することが難しいとの訴えが例年多いため、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させることができるよう工夫している。毎回の授業の最後に確認テストを行い、加えて次の授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだことで、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処することができた。ほとんどの学生が授業で配布した資料を活用しながら記録を作っており、自由記述にて、確認テストを復習することが重要ポイントの理解につながったという意見も多く、講義資料の配布や確認テストの実施が理解力や学習意欲を高めるモチベーションになったものと推察される。 本授業の性質上、授業の中で発表する時間をとることは難しいが、事例を取り上げたり、質疑応答の機会を増やしたりすることで、自分の意見をまとめて考える時間を作っていきたい。また、インターネットや図書館を利用した学生が例年少ないことから、今後も出典の確かな正しい情報を選び、正しく活用する方法についても指導していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は専門基礎科目であり、管理栄養士に求められる医学的知識の修得については、成績評価および学習到達度の自己評価から概ね達成できたと考える。今後は 3年前期の「臨床基礎医学実習」へとつなげていき、実践的な知識の定着を図る予定である。 修得すべき医学的知識は、生物学・化学など内容が多岐にわたり、量も多い。授業外学習時間を十分に確保することが難しい状況においても一定数の学生は予習・復習や課題以外の学習に積極的に取り組んでいるが、学生個々人の到達度はさまざまであるため、今後は全員を理想的レベルに持っていくことが課題である。授業内容を整理することで質疑応答の機会を増やしたり、事例を取り上げて検討したりするための時間を増やすなど、さらに興味を持って自己学習に取り組むよう学生の意欲関心を高めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
加工食品機能論	2	後期	必修	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目であり、卒業必修科目です。「あらかじめ授業の計画を立てた」と回答した学生は約60％程度で（回答数33名）、約半数の学生が授業計画を立ててに実験に参加していることがわかりました。「受講動機」は、「必修科目である」は100％、「資格に必要である」は30％、「関心のある内容である」は9％でした。授業の実施にあたり大切にしていることは、「関心をもってもらうこと」です。そのため、「食品の加工」や「食品の機能性」を身近なものに感じてもらうために、授業中にそれらに関する最新のニュースであったり、それらに関する将来展望などの話題提供を行い、それらが身近に感じてもらえる、関心がもてる授業を心掛けました。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「学習到達度の自己評価」に関する全ての質問について、半数の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答していること、「学習量の評価」について、約40％の学生が6回の講義に関して復習の勉強時間を確保したこと、自発的学習について、約40％の学生が「授業以外に学習に取り組んだ」と回答していること、自由記述の意見については、「小テスト」対策で勉強したと回答している結果から、全体を通してどちらともいえないと判断しました。知識理解（DP1）については、学習到達度で「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」について、約60％の学生が「わりにそう思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。思考判断（DP2）については、学習到達度で「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」や「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」について、約60％の学生が「わりにそう思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。意欲関心（DP3）については、学習到達度で「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができる」について、約60％の学生が「わりにそう思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目で、卒業必修科目です。「学習到達度の自己評価」について、概ねやや達成された結果が出ています。 また、本科目は、食品加工・食品機能性に関する科目なので、食品学Ⅰ、食品学Ⅱの次に配置されているのは妥当であると考えます。従って、D P、C P、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、妥当であると考えています。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、「授業の質の評価」について、「期限内に行うべき学習の範囲や課題は明らかだった」および「説明は理解しやすいものであった」について、約70%以上の学生が「わりにそう思う」または「かなりそうだと思う」と回答している結果より、授業の進め方は特に問題なかったものと考えます。一方で、「学習量の評価」について、「授業を振り返るために一日30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」について、約40%の学生が「6回」と回答している結果ができました。そして、その自由記述で、「授業の課題以外に取り組んでいない理由」について、「他の課題で忙しかった」、「時間がなかった」、「取り組み方がわからなかった」との回答がありましたので、授業の復習や課題以外の取り組み方法について、より具体的に指示するように改善していきたいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士受験資格必修科目、卒業必修科目です、学生の学習目標達成状況から判断すると、総合的には良いとは言えないと評価します。予習や復習を積極的に行うようにさせる指導（具体的な方法などを教授）、そして、本科目に関する関心・意欲・理解の向上（教材のさらなる工夫など）など解決していくべき課題が多くあります。これらを改善できるように、今後とも授業改善に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目であり、卒業必修科目です。「あらかじめ授業の計画を立てた」と回答した学生は約45%程度で（回答数31名）、約半数の学生が授業計画を立てに実験に参加していることがわかりました。「受講動機」は、「必修科目である」は100%、「資格に必要である」は29%、「関心のある内容である」は13%でした。授業の実施にあたり大切にしていることは、「関心をもってもらうこと」です。そのため、食品衛生を身近なものに感じてもらうために、授業中に食品衛生に関する最新のニュースであったり、毎日の食中毒予防などの話題の提供を行い、よりわかりやすい授業を心掛けました。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「学習到達度の自己評価」に関する全ての質問について、半数以上の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答していること、「学習量の評価」について、約50%の学生が6回の講義に関して復習の勉強時間を確保したこと、自発的学習について、約40%の学生が「授業以外に学習に取り組んだ」と回答していること、自由記述の意見については、「小テスト」対策で勉強した「関連した分野を調べた」と回答している結果から、全体を通してやや達成されたと判断しました。知識理解（DP1）については、学習到達度で「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」について、約70%の学生が「わりにそう思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。思考判断（DP2）については、学習到達度で「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」や「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」について、約70%の学生が「わりにそう思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。意欲関心（DP3）については、学習到達度で「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができる」について、約70%の学生が「わりにそう思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目で、卒業必修科目です。「学習到達度の自己評価」についても、概ねやや達成された結果が出ています。また、本科目は、食品衛生に関する科目なので、食品学Ⅰ、食品学Ⅱの次に配置されているのは妥当であると考えます。従って、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、妥当であると考えています。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、「授業の質の評価」について、「期限内に行うべき学習の範囲や課題は明らかだった」および「説明は理解しやすいものであった」について、約80%以上の学生が「わりにそう思う」または「かなりそうだと思う」と回答している結果より、授業の進め方は特に問題なかったものと考えます。また、「学習量の評価」について、「授業を振り返るために一日30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」について、約50%の学生が「6回」と回答している結果より、学習量も適当ではなかったかと思います。ただし、自由記述で、「授業の課題以外に取り組んでいない理由」について、「他の課題で忙しかった」、「他の課題に追われていた」との回答がありましたので、授業の振り返りが簡単にできるような教材も考えていく必要があると思いました。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士受験資格必修科目、卒業必修科目です、学習到達度の学生の自己評価から判断すると、目標のDPを達成できたのではないかと考えています。しかし、さらなる関心・意欲・理解の向上など解決していくべき課題があります。これらを改善できるように、今後とも授業改善に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は食品の鑑別論というテーマで栄養学科の学生にとって必要とされる食品に関する幅広い専門的分野を取り扱っていることから、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説を行うことで、わかりやすい授業運営に心がけながら授業準備を行った。また適宜、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に適宜、難易度の高い分野や試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。本演習は特に後半部分で食品学Ⅱの講義と重複する部分が多くなるが、重複部分を選けながら、かつ重要な部分は本演習でも取り扱うことにより、受講者の幅広い知識の修得と理解度を深める配慮を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講者は34名で、休学などで2名の離脱者があったが、27名（79％）がA評価であった。教育の質は高いものになったと考えている。またDPの平均値は3.4～4.2であった。3.4は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項であり、座学と演習方式の内容であることからどうしても低くなりがちではあるが、次年度に向けて改善をしていきたい。また学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。本演習にまで学習時間が確保できないことが考えられるが、次年度以降は事前学習、事後学習を効率的にどのように行うか、具体的に学生に対してアドバイスができればと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は栄養学科の専門科目としての位置づけとなる。全ての受講生が「自分なりの目標を達成した」という設問に対して、全ての回答者が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないと思われる。また食品の鑑別に係る様々な事象を理解する視点や考え方を得ることができたと答えた受講生についても平均値が4.1であり、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説してきた成果が表れているものと解釈している。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については平均値が3.5～4.5であった。特に低かった項目は「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目であった。次年度は、この点については留意したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を十分に達成していると思われる。学習量の評価では関心をもったことについて深く調べた受講者もいたが、「他の科目が忙しい」と回答した学生が目立ったことから、次年度は受講者に対して効率的に事前学習・事後学習を行うためのアドバイスができればと考えている。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品流通・消費論	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①資格取得を目的とする教科であるため、テキストに沿った内容を中心に授業計画を立てた。当該科目は、「食」に関わる流通、マーケティングさらには食料消費についてなど社会状況に密接した科目である。その為、現在の状況を反映させながら、授業を行うことを心がけた ②学生の受講動機は「資格取得に必要である」80.8%となっており、資格試験必修教科であることから、資格試験を反映しテキストに沿った計画が必要である ③マーケティングや流通に関する内容は、他教科で重複することがないため、当該科目で重要な点を把握できるように、また資格試験のための学習時に役立つことにも重点を置いた
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①成績評価 最終的な成績の平均値は78点であり、再試験対象者はおらず、すべての受講者が標準レベルに達していた。そのうち理想的レベルに達した者（80点以上）は11名（40.7%）であった。 ②授業アンケート結果 「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均値：4.3、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値：4.2、「的確に判断する力を得ることができた」の平均値4.2、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」は平均点：4.2と授業アンケート結果からも達成度は妥当であるとする					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。「食」に関する流通、マーケティングの取り組み、さらには食糧消費の実態について学ぶ科目であり、学生も一定の成績を収めている。また、受講動機で最も多かった「資格取得のため」の観点からみても、資格取得のためには最も基礎的かつ必要な知識であることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から受講者全員が標準レベルに達しており、理想的レベルに達した人数40.7%であった。本教科に関する基礎的な知識が身にについていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業アンケート評価 「テスト、レポート、提出物などの判断基準」の平均値4.5、「期間内に行うべき学習の範囲や課題」の平均点：4.5、「説明は理解しやすい物であった」の平均値：4.6と、いずれの項目からみても概ね順調に授業を進められていたと考えている。また、昨年度、授業のスピードに関して要望があったため、資格試験の過去問題などを取り入れて、改善を行った。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講者全員が標準レベルに達しており、そのうち理想的レベルに達した者（80点以上）は40.7%であったことから、学生の目標達成に関しては達成できたと評価できる。さらに、「達成度自己評価」では、概ね4.2、4.3の評価を、「授業の質」のアンケートにおいて、4.5、4.6の評価を得られていることから、授業の質に関しても妥当であると考え。しかしながら、「授業中に自分の意見をまとめる、発言する機会」に関しては3.4、「学生からの質問を受けそれにこたえる機会がつけられていた」では3.7との評価であったため、この点に関しては改善したいと考える。 資格試験は3年生後期の時期であり、履修後から資格試験の受験までに期間が空くため、資格試験合格のため早めの取り組みを促していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖生理学実習	1	後期	必修	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①正常な生命活動の仕組みについての理解を深めるため、解剖生理学の講義の復習を促して生命維持に不可欠な諸器官の構造と機能について、身体活動などと組み合わせる可能な限り身近な題材を用いて実習を行うようにした。 ②実習レポートは実習終了後一週間以内に提出をさせ、提出後1週間以内にコメントを付して返却した。実習内容を忘れないうちにまとめることと、早い段階でのレポート返却により、学生がコメントを確認することで復習の機会が自然とできることを意図した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の成績の平均値は75.2±11.4点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。到達度自己評価にて「職業選択の参考になった」について「少しそうでないと思う」以下の回答が5%程度あったが、そのほかの項目に関して「まあまあそうだと思う」という肯定的な意見が95%以上を占めている。 加えて、レポートは総じて大変良くできており、積極的に取り組んだ跡がうかがえた。 図書館等の利用が非常に少ないが、実習時間中にスマートフォンなどを用いてインターネットを利用した情報検索を許可しているため、このような結果になったと思われる。 以上のことから、この科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的にかかわったことがうかがわれる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「専門基礎分野」になり、必修科目である。実習で行った内容は解剖生理学の講義で学習したメカニズムを実際の自分たちの体で体験するという知識定着の役割も担っている。そのため、管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。また、学生の成績も非常に良かったことから内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 「到達度自己評価」及び、実習の成績からみても学生は進んで熱心に取り組んでいたと評価したことから、目標をほぼ達成でき、内容は妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においてすべての項目において「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が95%以上を占めているので、概ね学生が肯定的な判断を下しており問題はなかったと判断できる。座学の解剖生理学が前期で終わった段階でこの実習を行っているが、前期の座学の復習という形で知識の定着ができたと考えている。 図書館にて本で調べることがほとんどできていないことについても、実習中にインターネットを活用して調べることを行っているため、大きな問題はないと考えている。まずは教科書を読むことを習慣づけることから注意を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。 この科目は①人体を構成する主な骨と筋肉の名称を覚えること、②泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになること、③実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につけることを目標に行ってきた。最終的な到達目標は、①～③を初学者に説明できるようになるという点に置いた。学生による授業評価とレポートの採点結果から見て、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。 今後の課題としては、インターネットを用いて調べる際に、正しい情報を選び取る力を身につけてもらえるような工夫をしていきたいと考えている。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品学実験	1	後期	必修	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①食品学Ⅰで修得した知識を、実験を通して再確認し確実に定着させることを重点とした。実験操作の基礎的方法を再確認する実験項目を実施後に、食品成分に関する実験に取り組んだ。これによって知識だけでなく、実験に必要な基本的操作方法の定着に繋がるものとする。また、一連の実験を通して、科学的な考え方を意識して持ちながら実験に取り組むことを学生へ周知した。 ②学生の受講動機は「必修科目である」が97.5%を占めた。管理栄養士、栄養士の免許取得には欠かすことのできない科目でありこれらの回答率は妥当なものである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 受講者42名のうち再試対象者は2名であったが、2名ともに再試験に合格し、最終的な平均値は76点であった。42名中理想的なレベルに達した者（80点以上）は23名（52.2%）であった。 ②アンケート評価 アンケート評価の平均値は、「知識の確認：4.2」「理解する視点や考え方：4.0」「課題検討力：4.0」「判断力：4.0」「意欲：4.0」であたったことから教育目標が達成できたと考える。事前事後学習の回数では、レポート作成などの課題を与えているが「0回」と回答する学生が多く、レポート課題が復習に結びついていない状況が伺えた。また、実験は班で進めていくこと、実験結果と考察を教員に説明するという取り組みを取り入れたことから、コミュニケーションを高まりの評価においても一定の評価が得られていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① DP/CP カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品学Ⅰで修得した知識を、実習を通して定着させ、さらには技術の修得も行うことができる科目であり、学生も一定の成績を収めているため、内容的にも妥当であるとする。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から、受講者42名全員が合格し、19名が標準レベル、23名が理想的なレベルに達しており、専門的な知識や技術を修得できたと判断される。学習到達度の自己評価においても「知識の理解度」や「判断力」の平均値が4.2、4.0であったため、内容的に妥当であったとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の進め方 授業の実施にあたって、実験項目ごとに目的の提示、反応の仕組みについて講義を行い、理解度の向上に努めた。また、器具をつかってのデモンストレーションを行うなど、学生が実験手順を整理して取り組めるよう心掛けた。さらに、授業を進めて行く上で、濃度計算を苦手としている学生が非常に多かったため、練習問題を作成し解説する授業も取り入れた。昨年度は、班ごとに前週の実験の振り返りを発表するという取り組みを行ったが、発表する学生が限定され理解しているか判断が難しかった。今年度は、実験結果確認の際に、班員の1名が代表して結果と考察を教員へ説明する取り組みを行った。実験終了時に目的、結果、考察の整理できた点、必ず1度は説明を担当することで発言の機会を持たせることができた点は、授業の質の評価につながっていると考える ②授業の質評価 アンケートにおける授業の質の項目結果では、評価基準に関して：平均値4.0、学習や課題の範囲：平均値4.1、説明の理解：平均値4.0、発表の機会が設けられている：平均値4.2、学生の質問を受け、それに答える機会：平均値4.0であった。このことより、概ね学生が満足できる授業を行えていたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度は成績評価ならびに学生のアンケート評価から、概ね目標は達成されたと考えている。今年度も継続して取り入れていたレポートに対する解説や苦手な計算に対する講義は、学生の理解も得られているようであった。今年度実施した実験結果確認時に、班員の1名が代表して結果と考察を教員へ説明する取り組みによって、目的、結果、考察の整理できた点、必ず1度は説明を担当することで発言の機会を持たせることができた。自由記述について、わからなかったところや実験の振り返りなども自ら行っている学生も見受けられたので、授業の質の評価につながっていると考える。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	若菜 啓孝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康情報処理実習	2	後期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この実習では、アンケート調査の一連の手順、具体的には、食に関わるアンケート調査票の作成、実施、集計、分析、報告書の作成を通して、栄養学研究または、実践活動をする上で必要な統計的手法および得られた健康情報の表現・伝達方法について学ぶ。 開講時の学生の準備性に関しては、前期開講の理論科目にて把握していたため、より具体的な例示を中心に展開することとした。特に、前期授業でもPC操作を数回取入れ、スムーズに授業展開できるように行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学修準備性に関しては、前期授業の理解度の差が大きく、理解度の高い学生ほどファイル内容の整理が行われていた。 学習到達度は、単なる統計的处理方法だけを実施していた学生の割合が多く、問題文章の把握や応用的な問題に苦戦し、小テストの回数を増やすなどの対策をとった。ただ、その結果は思ったほどではなくBやCの成績の度数が多く、平均は70点程度であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DPの観点で考えた場合、位置づけとしては他科目（特に、実験・実習）の数値的な処理の基本を学ぶものとして開講されているはずである。しかしながら、学生にとっても単独の科目としての受講ではなく、他科目の実例を熟すような流れが望ましく、内容的にはそれらの科目との連携が必要と思われた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業形態としては、簡単な理論的説明と具体的なPC実習、さらにはその練習・応用としての課題提出という流れをとった。課題に関しては、実際に要した時間も記述させるなどし、レベルや量の調整を図った。ただし、提出期限間際に取り組む学生も多く、さらには機械的に計算させただけの結果表示など多くの課題が見つかった。授業後半においては、自分なりのガイドマニュアル作成もかねて課題提出をさせたため、要した時間は多くなった。今後、この課題シートを振り返り、他の事例に生かしてもらいたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的な評価としては、あまり良くない。原因としては、適切な教科書がなく多くの教科書・オンラインの情報を組み合わせてオリジナルの教材にて授業を展開していったことにもあると思われる。学生の理解度によって、加筆・修正を行っていったが、全体の流れを説明するには力不足であったと思われる。授業骨格部分の見直しなどが必要である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機に対する回答で、回答した40名の学生全員が「必修科目である」ことを理解しているが、「資格取得に必要である」ことを理解している学生はわずか9名(22.5%)、「関心のある内容である」と答えた学生も同じく9名(22.5%)と少なかった。栄養学の基礎的知識が、管理栄養士資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士業務の実践の場でも重要な基礎的事項であることを具体例をあげながら強調しているが、なかなか浸透しない。関心を高めるために、日々の生活においても自分を含めた身近な家族や友人の健康を守るために栄養学の知識が役に立つことをを説明していきたい。 ②新型コロナ感染がある程度落ち着いているので、すべての講義を対面で実施した。 ③授業で使用するパワーポイントの資料は、常に修正し、よりわかりやすい内容となるように改善している。 ④授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。また、授業の終わりに、その日のテーマに関する練習問題を学生に口頭で答えさせるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の本試験を受験した42名の成績の平均値は、79.6点(±11.8)であった。本試験では、42名中38名(90%)が合格し、4名(10%)が不合格であった。成績の分布は、90点以上が8名(19%)、80点～89点が18名(43%)、70点～79点が7名(17%)、60点～69点が5名(12%)、60点未満（不合格）が4名(10%)であった。不合格4名のうち、3名は再試験で合格し、残りの1名は再試験を受験しなかった。今年度(2023年度)の試験は、「対面・資料持ち込み不可」で実施したが、試験の平均点(79.6点±11.8)は、同じく「対面・持ち込み不可」で実施した2022年度(平均78.8点±11.2)とほぼ同じ成績であったが、オンラインで実施した2021年度(平均82.2点)および2020年度の(平均87.3点)に比べると低下していた。2021及び2020年度の試験はオンラインで実施したため、結果的に「資料・教科書持ち込み可の試験」になったことが、好成績の原因であると思われる。それ以前の「対面・持ち込み不可」の試験の成績(平均72点～77点)と比べると今年度の成績は、ほぼ同じレベルかやや好成績であった。3年前より授業の終わりになるべく多くの学生にその日に学習した範囲の練習問題を口頭で答えさせるようにしているが、このことも成績向上に影響しているかもしれない。授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、この科目のDP1(知識・理解)及びDP2(思考・判断)に相当する項目(1)～(5)については、今年度(2023年度)の評価は3.7～3.8で、オンライン試験で成績の良かった2021年度(3.7～4.1)および2020年度(3.8～4.2)よりは低い評価であったが、対面試験で成績がほぼ同じであった2022年度(3.6～3.8)、2019年度(3.4～3.8)、2018年度(3.2～3.4)と比べると、ほぼ同じレベルかやや高い評価であった。以上より、まだ改善すべき点が多いが、一応の教育目標を達成できていると考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、卒業必修及び管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。「3. 授業準備について」でも述べたように、資格取得に必要であると答えた学生や、この科目に関心があると答えた学生数がなかなか増加しない点は、今後、国家試験の過去問をを解かせたり、栄養学が重要な役割をする具体例などを示すことによって、改善していく必要がある。ただ、期末試験の成績において良好な成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えている。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 本科目のDPである「知識・理解」(DP1)および「思考・判断」(DP2)を評価する期末試験の成績は、おおむね良好であることから、内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」の今年度(2023年度)の評価(3.0～3.9)は、オンラインで授業を実施した2021年度(3.2～4.0)、2020年度(3.6～4.3)に比べると低評価であったが、今年度と同じく対面で実施した2020年度(2.9～3.7)および2019年度(3.0～3.6)に比べると、「授業の質評価」の各項目でやや高い評価であった。基礎栄養学の講義はパワーポイントのスライド講義で実施しているが、科目の性質上、比較的込み入った図が多いため、広い教室のスクリーンで見ると各自がモニターで見の方が分かりやすいのかもしれない。教室では「密」を避けるために、間隔を取って席についてもらったので、後ろの方はスライドが見にくかった可能性もある。今回の「授業の質評価」の中では、項目(1)「明確な評価基準」、項目(2)「学習の範囲・課題」および項目(3)「説明の理解しやすさ」が比較的高い評価(3.9～3.7)であった。スライドは毎年、分かりやすくなるように改訂しているが、更に改善していきたい。 例年、得点が低い項目(4)「授業中の学生の参加・発表」については、昨年度(2.9)よりはやや高評価であったが今年度も評価(3.0)が低かった。この項目についてもオンラインのほうが対面より評価が高い傾向(3.2と3.6)があった。また、例年、授業アンケートの自由記述で「早口で分かりにくい」と指摘されることが多いが、今回はそういう指摘がなかった。厚労省から提示されている基礎栄養学の「国試出題基準(ガイドライン)」や栄養改善学会がまとめた栄養学の「コア・カリキュラム」の内容をすべてカバーするには、早口で講義しても時間的にはかなり厳しいという現実があるが、講義内容をコンパクトにまとめて、出来るだけ明確にゆっくり講義するよう心掛けたことがいくらか効果があったのかもしれない。以上、学生の期末試験の成績は例年と同様良好であったことも含めて、授業の目標はおおむね達成できたのではないかと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎栄養学の基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践の場に活用できるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学概説	1	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①栄養学概説は、2年次からの専門基礎および専門科目を学ぶ前の導入教育の意味も含む卒業および管理栄養士受験資格必修の科目である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答である。今年度は各担当教員が、講義内容の見直しも図りつつ、この科目を2年次から学ぶ専門基礎および専門科目へ繋ぐことが出来るように、学生の学修レベルにも配慮しながら、学生に関心をもって講義に臨んでもらうことが出来るようにした。学生からもこの科目を学んだことで「知識を確認、修正、新たに得ることが出来た」と多くの学生たち100%）が評価しており、今後に修得していく科目へ学びを繋ぐことへ貢献できたものとする。 ②栄養学概説は、「日本食品標準成分表」に関する講義と、「日本人の食事摂取基準」に関する講義の二本立ての科目である。2人の教員によるオムニバス講義であるが、2教員とも資料を配付し、その資料には、ポイントが理解できるようにする、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。さらに教員は食品成分表や食事摂取基準などの講習会に参加し、最新の情報を学生たちに提供できるように努力している。食品成分表の担当教員は実務家の経験がある教員でもあるため、基本の講義は勿論のこと、より実務に即した講義を展開している。「食事摂取基準」の講義では、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。次年度以降も学生たちの学修レベルの把握をしながら講義の進行をしていく必要がある。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は平均76点±20点であった。44名の受講生中、A(秀)が10名(23%)で、B(優)が30%であり、C(良)が11%、D(可)が4.5%であった。不可の学生が27%と高かった。受講生の約72%が標準的レベルに至っており、講義内容や試験方法はこのままで実施していく。また学習到達度の自己評価においては、講義への関心の高さがうかがえ、この科目を「的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいという意欲を持つことができた」「さまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」との回答が多く、DP3に関してはこれらの回答を含め評価した。これらの評価結果から今年度のこの科目のDPの達成は「やや達成された」と回答する。学習量の評価では、約46%の学生が予習、約44%が復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学習時間の確保に関しては、毎年度の課題ではあるが学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テストを実施し、この返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、自主的学修のためにも、インターネットだけでなく図書館の利用に関して、学生に勧めていく必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の中の応用栄養学の項目の1つに位置している。また、2年次からの専門基礎および専門科目への導入科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度からは、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約46%の学生が予習、約44%が復習を一度もしていないと回答した。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は49%であった。講義初回時にシラバスの説明をしており、このシラバスを参考にしながら、講義を受講できた学生は多かったと思われる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、2年次の専門基礎および専門科目への導入科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価から、概ね全てのDPを達成できたものとする。今後も学生の学修レベルの把握を行いながら講義を展開していくことを考える。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。授業評価では、担当教員に対し、講義がわかりやすかったと良い評価を得ることも出来た。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100%は当然の回答であり、「資格取得に必要なである」が34.3%、「関心のある内容である」が14.3%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ（2年前期）の講義を学生の関心を引き付けようような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある、これは毎年度の課題であるが、難しいのも現実である。 ②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説するようにした。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく。但し、年々、小テストへの質問等を記載する学生が減ってきており、関心を持って講義を受講している学生数の低下がうかがえる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は74±13.4点で、37名の受講生中、A(秀)が13.5%、B(優)が18.9%、C(良)27%、D(可)が22%で一番多かった、不可の学生は19%であった。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みにて評価をおこなった。受講生多くが標準的レベルに達してはいるが、理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達している学生は13.5%と低かった。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、優の学生も18.9%のため、講義の進行や内容としては妥当と考える。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約50%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後はもっと予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつながりの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約50%の学生が予習・復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は49%と高かった。しかし51%は、シラバスを活用し授業の計画を立てている。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。初回にシラバスを印刷したものを配布しているので、これに講義前には目を通すことを促したい。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつながりや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPをある程度は達成できたものとする。3年前期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養	3	後期	選択	はい	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	人間は動くもの（動物）の一員である。摂取された栄養素は我々が身体を使うとき、体内で様々な代謝され、その活動を物質的に支える。しかしながら、今日のように日常生活様式が機械化され、情報化されて便利になると、日常の身体活動が低下し、本来そのために使われるべき栄養素と遺伝的に備わっている代謝機能が十分に活用されず、体内での栄養素の代謝が不活発となる。一方、「飽食時代」と言われるように、「食」に関しては、好きなものを、いつでも、いくらでも食べることができる。このような身体活動や食における生活習慣の変容が、今日の生活習慣病の増加をもたらす大きな要因となっている。 本講では、身体活動(運動)時や環境変化・ストレスに対応して、体内で起きている栄養代謝の概要とそのメカニズムを学び、身体活動、環境変化、ストレスに対して、栄養の面から適切に対応することが、疾病の予防や健康の維持・増進にいかに関与するかを学ぶ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均84（SD9.0）再試対象者1人、80点以上41名（55名中）目標達成、理想的レベル達成 受講動機；必修科目75%、資格のため57%、単位数の確保18%、科目の意義を考えさせる必要性 達成度の自己評価；2.8～3.9（4.0以上0項目/10）自己目標の達成感を醸成する必要 授業の質；2.7～4.0（4.0以上2/5項目）高評価、プレゼン能力の育成 学習量；予習なし20%、授業時に学習記録、運動記録、試合記録をタイムリーに行うので、もっと授業外の学習の工夫が必要 情報利用；シラバスは半数近くが参考になっている。シラバス誘導型への内容充実が必要。 図書館の利用；図書館、インターネットともに利用が低い。学習方法など調べて実行する課題が必要。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講では、身体活動(運動)時や環境変化・ストレスに対応して、体内で起きている栄養代謝の概要とそのメカニズムを学び、身体活動、環境変化、ストレスに対して、栄養の面から適切に対応することが、疾病の予防や健康の維持・増進にいかに関重要であるかを学ぶ。 受講動機は75%が必須科目という事で受講している。そのほかに資格に必要であるが57%である。 残念なのは関心があるが14%と低く、栄養学科の学生が応用栄養の必要性を理解ができていないと感じる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	3人の教員で進めている。それぞれの評価基準があるが、平均的に80%の理解度を目標にそれぞれの教員で、授業改善をおこなっている。 授業の質の評価は2.8～3.9であった。受講生の半数は予習復習を行なっている。 情報の利用は半数以上が利用している。図書館の利用は少数で残念である。 学習状態はネット中心だが順調と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習は意欲があることが、成就するポイントである。基礎力を応用するこの科目に興味を持つように動機づけに力を入れたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本3年生における受講動機は、「必修科目である」が94.6%、「資格取得に必要である」が27.0%であり、「関心のある内容である」は8.1%と少ない状況であった。そこで、理論の一方的な説明にならないよう留意し、関連する管理栄養士国家試験内容等の紹介等も織り交ぜることで、関心を引きつけるように配慮した。 授業の最初に、将来の希望職種に関する調査を行い、管理栄養士の資格を生かした職を希望する者が多いこと、一方でまだ決め切れていない学生も一定数いることを確認した。ある程度決まっている学生の希望就職先は保育園や小学校、病院、行政等、多岐に渡っていたので、幅広い対象における知識が深まるよう配慮した。 授業の始めに毎回、確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。また、確認テストの解説を丁寧に行うことで、前回の学習内容の確実な定着を図り、当日の講義内容の理解につながるよう講義と講義のつながりに重点をおいた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終試験の得点の平均値（標準偏差）は80.1（11.2）点であり，90点以上が15.4%，80点以上90点未満が48.7%，70点以上80点未満が25.6%で，合計で89.7%が70点以上に達した。平常点を加味した最終成績の内訳（履修放棄者を除く）は，Aは8人(20.5%)，Bは12人(30.8%)，Cは10人(25.6%)，Dは8人(20.5%)，Eは1人(2.6%)，再試未受験者)であった。 項目別に見た平均値（標準偏差）は，知識理解を問う問題（60点満点）が56.7（7.2）点，記述問題（30点満点）が18.6（4.9）点，思考判断を問う問題（10点満点）は4.9（3.5）点であった。記述力や思考判断力に課題はみられるが，知識理解の得点率は非常に高く，目標は達成されたと判断した。意欲関心や態度については，講義への出席率や毎回の小テストの成果，指名質問に対する回答内容等から判断して，おおそ目標は達成されたと判断した。 学生による到達度自己評価では，「自分なりの目標を達した」が97.3%，「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」，「的確に判断する力を得ることができた」が100%肯定的回答をしており、他の項目においても肯定的回答が多くを占めていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、必修である。管理栄養士国家試験の受験科目の一つでもあることから、様々な理論の理解が求められると同時に、応用的な思考力・判断力を身に着けることも重要である。行動科学に関する理論や栄養教育マネジメントの理解が進むように配布資料内容を吟味した。学生は、小テスト及び本試験において一定以上の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えている。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目のみ肯定的回答が86.5%と9割に達していなかったが、その他の項目は全て94.6～100%が肯定的回答をしていた。このことから内容的妥当性は高いと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	以前の関連科目の講義における学生評価の中で、「小テストの回答を詳細に示してほしい」との意見がみられたため、本講義においては小テストの解説をより丁寧に行った。1週間前の講義内容の繰り返しとなるため重複を感じる学生が多くないか危惧していたが、多くの学生が小テストを好意的にとらえていたことがアンケート内容から伺えた。学生が授業外で取り組んだ学習としても小テスト対策を挙げている学生が多く、中には「冬休み課題の本科目の正答率が最も高かったのは小テストのおかげだと思う」との意見も書かれていた。 この『栄養教育論Ⅰ』で教示した理論を『栄養教育論Ⅱ』の実践的内容につなげていきたい。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお示しください。	管理栄養士として社会で活躍するために、栄養教育に関する様々な理論や教育の計画・実施・評価・改善の一連の流れを学ぶという観点から、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、一部に授業外の学習量が少なかった学生がいたことは課題である。その理由の一つとして「時間がとれなかった」という回答が複数みられたことから、アルバイトやサークル等による生活時間に関する助言を行ったり、学科内で課題量等を調整したりする必要があると感じた。講義で伝えたことはよく理解できていたが、応用力の定着にまで至らなかったことは考慮すべき点である。 講義であることを意識して知識の伝達に重点をおいたが、学生自身に発言させる機会も設けることで、より積極的な意識につながり、知識の定着が進んだと考えられる。受身的な受講にならないよう、学生の声を拾いながらのスタイルは次年度も続けていきたいと考えている。 以上から、今後は、応用力の定着につながるような学習に導くこと、学生自身が発言をできる取組みを続けることに留意していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養カウンセリング論	3	後期	選択	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本3年生における受講動機は、「必修科目である」が89.8%、「資格取得に必要である」が49.0%であり、「関心のある内容である」は8.2%と少なかった。本科目は、これまでに学んだ理論を実践に活用するための講義・演習であるため、グループワークを多く取り入れ、関心を引きつけるように配慮した。 各講義の始めに、栄養教育論に関する重要ワードを確認する「小テスト」の時間を設け、栄養教育に関する理論等について再度解説した。4年生に向けての国家試験対策も意識しつつ、理論に基づいた演習となるよう配慮した。 グループ内で討議する時間を多く設定し、コミュニケーション能力の向上を目指した。また、各グループごとに討議した内容を全体の前で発表する機会を多く設けることで、社会人となった際の実践的スキルを身に付けさせることに重点をおいた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験試験は行わず、講義内におけるグループ討議中の発言や全体での発表、提出物等の平常点の累積により評価を行った。最終成績の内訳（履修放棄者を除く）は、A（90点以上）は13人(23.2%）、B（80点以上90点未満）は22人(39.3%）、C（70点以上80点未満）は9人(16.1%）、D（60点以上70点未満）は12人(21.4%）、E（60点未満）は0人(0.0%）であった。80点を超える得点を獲得した学生が6割以上いる一方、60点以上70点未満の学生が2割強含まれたことから、目標は「やや達成された」と判断した。 意欲関心や態度については、新たな知識を習得する講義内容ではなかったことも影響していると考えられるが、講義への欠席率が他の講義や実習に比べてやや高かったことから「達成された」ではなく、「やや達成された」とした。但し、講義や演習中の積極的な態度は回を追うごとに増し、発表内容も一定の成果はみられたと考えている。 学生による到達度自己評価では、「自分なりの目標を達した」、「職業選択の参考になった」が98.0%、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「的確に判断する力を得ることができた」等の他の全ての項目において100%が肯定的回答をしていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」で、選択科目ではあるが、管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには必修の科目である。管理栄養士国家試験にもカウンセリングに関する問題は出題されるため、様々な理論や技法の理解が求められると同時に、社会に出た時に役立つ実践的なスキルや応用的な思考力・判断力を育成することにも主眼を置く必要がある。そのため、栄養教育に関するキーワードの確認を毎回実施するとともに、グループディスカッションを多くとり入れ、理論と実践が結びつきやすいように配慮した。学生は、全体発表及び提出物において一定以上の成績を修めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 自己評価において、本科目で最も主眼を置いている「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目で、全員（100%）が肯定的回答をしていたことから、内容的には妥当であるとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	栄養教育論に関する重要キーワードの確認を実施する際、昨年度は『キーワードチャレンジ』としてあえて『テスト』とはせずに各自のペースで自主的に学習することを促したが、取組みの度合いに大きな個人差がみられたため、今年度は『小テスト』として実施した。一部、学習度の低い学生もみられたが、多くの学生が意欲をもって取り組んでいた。 グループディスカッションでは、マンネリを防ぐため、メンバー構成を適宜組み換え、より多くの学生と関わりをもてるように工夫した。多くの学生が積極的にディスカッションに参加し、各ライフステージの特徴やカウンセリング技法のポイントを押さえながら、栄養教育計画の立案に取り組んでいた。但し、グループディスカッションに入る前の個人で立案を行う時間ではやはり内容や理解度に個人差がみられた印象であったため、次年度は個々人のやる気アップにつながる声かけ等を工夫していきたい。 学生からの授業評価の意見の中に、「この授業を受けて、管理栄養士として働くことの魅力や国試に対するモチベーションが上がり、これまでよりも管理栄養士になりたいという思いが強くなった」というものがあり、一定の効果が実感できた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	あらゆる人に心から寄り添える管理栄養士となるために、実践的なカウンセリングスキルを習得するという観点から、ディスカッションスキルの習得やカウンセリング計画の理解については概ね達成できた。回を追うごとに、ファシリテーター役の学生がディスカッションをうまく進行できるようになり、発表者もポイントを押さえた発言ができるようになっていた。 学生の授業評価においては、「授業の課題以外の学習に取り組んでいない」と回答した学生はやはり多く、その理由としては「時間がなかった」、「他の講義の課題で手一杯だった」、「余裕がなかった」等があげられていた。本学科では、3年生の後期にはより専門的な講義が増え、臨地実習関連の課題にも追われる実態がある。本科目「栄養カウンセリング論」の自己学習については、臨地実習関連の課題の中にも通ずるものがあり、学生が他の科目の課題への取組みの中でも、カウンセリング技法や教育計画手法を意識できるような働きかけが必要であると考えている。 以上から、今後は、全員が積極的にディスカッションに参加できる声かけを工夫すること、学生が他の科目との関連を意識できるような働きかけを行うことに留意していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	森山 美加代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理学	2	後期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年生になって、臨床栄養学についての概要や基本的な管理や評価について専門的に学ぶ科目である。そのような中、受講動機をみると「必須科目である」97%、「関心のある内容である」9.1%と科目の必要性を理解していないのではと考えられる。 実務家教員として、症例や経験等の話を授業に取り入れ、興味を持つように授業を行った。 授業の第8回目と第12回目に授業内容の確認テストを実施し、学生の復習の意識を高め、学習内容の理解度を確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績評価では、2回実施した確認テストの結果も含めた総合的な判定としていたが、本試験のみの結果からすると、平均点は78.5点であり、90点以上を獲得している者が13名と知識理解度を得ることができたのではないかとと思われる。 予習をしていない学生55%、復習をしていない学生39%と多く、もう少し意欲関心の持てる授業の進め方を検討すべきと考える。しかし、自発的学習に取り組んだ学生は39%と全体の13名であり、これらの学生が知識理解度を深め、成績に繋がったのではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門分野としての臨床栄養学を学ぶにあたり、最初の概要や基本的な管理や評価を習得するもので必須であり、CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみて、内容的には妥当であると考ええる。 また、受講動機では関心度は低いものの、学生は一定の成績を収めており知識理解度は得られているものと考えられ、DP、行動目標からみて、内容的には妥当であると思われる。 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の項目が、平均3.3であった。症例検討などを設けていたが、もう少し回数を増やし、意見交換ができる取り組みを検討していく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門分野の臨床栄養学を学ぶ最初の教科としては、知識理解度については、概ね達成できたのではと思われる。だが、技能・表現の部分がやや低かったため、今後のより専門性を高めた臨床栄養学の教科で習得できるよう指導を引き継いでいただく。 今後の課題としては、症例検討等をもう少し加えて、意見交換ができる時間を増やすようにしたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	渡邊 和美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	医療機関に従事する管理栄養士は、栄養サポートチームの一員として栄養管理を担う。適切な栄養管理は、治療の促進、合併症発現の抑制、入院期間の短縮、ひいては、医療費の削減に繋がることになり、重要な業務となる。そのため、栄養学科専門教育科目であり、管理栄養士、栄養教一種免には必修となる。本科目では、実務家教員として、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理に重点をおいて、毎回の講義ではテーマを決めて各論的に授業計画をたてた。学生の受講動機は、必須科目である89%、資格取得に必要である58%、関心のある内容である12%、単位数を確保する12%であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績表の平均点は76点であった。再試験対象者は6名、追試験者は1名であった。ほぼ全員が標準的レベルに達することができた。理想的レベル（80点以上として試験を作成）に達した者は38名であった。項目別にみると知識意欲に関して96%、思考判断92%、関心意欲96%であった。学習量の評価では、授業に参加するための事前事後学習量については、全くしていないが42%、それ以外は1回30分程度の準備と30分の復習についてどのくらい行いましたかには1回～10回と学生によってバラツキがあった。記録の作成については、主に配布資料に記録したが、100%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP 本教科は栄養学科専門教育科目の中の「選択」であり、管理栄養士、栄教一種免に必要な単位である。学生は一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であるとする。②成績評価から知識・意欲に関する達成度は高く、知識理解も高いこと、また関心意欲も高いことから内容的には妥当である。③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業のレジュメについては、資料の字が小さいとの指摘があり、現在A4サイズを6分割で印刷しているが今後は4分割で印刷したい。情報利用として、この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした、あるいはあらかじめ授業の計画を立てた学生は約50%であった。また教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた学生も50%であった。図書館利用は利用しなかった学生は85%、インターネットのホームページを検索し、利用した学生は23%であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	栄養学科専門教科としての位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。思考判断の面でも概ね達成できた。また関心意欲の面でも概ね達成できた。今後は、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、復習・課題を意識的に提示するなども加えていきたい。また、図書館利用やインターネットの活用者が増えるように授業の中で紹介するなどを試みるのが課題である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	渡邊 和美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	臨床現場における管理栄養士は、医療スタッフの一員として専門性を活用することが求められる。本教科では、実務家教員として、医療スタッフ間で使用されている医療用語（専門用語）や多職種の専門性への理解を深め、医療施設における様々な医療チームの一員としての管理栄養士の役割や業務内容を具体例をあげながら実施することを大切にしている。受講動機としては、必須科目である74%、資格取得に必要である71%、関心のある内容であるには10%であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は70点であった。再試験対象者は10人、追試験者は0人であった。ほぼ全員が標準的レベルに達することができた。理想的レベル（80点以上として試験を作成）に達した者は16名であった。項目別にみると知識意欲に関して100%、思考判断100%、技術を身につけるは96%であった。学習量の評価では予復習時間については、74%の学生が1回～11回に回答している。授業の記録作成は、主に配布資料87%、自分なりのノートを作成したが10%、記録しなかったが3%であった。情報利用としては、シラバスを参考にして計画を立案した学生は49%であった。図書館利用は利用しなかったが90%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP 本教科は栄養学科専門教科の中の「選択」であり、管理栄養士、栄教一種免に必要な単位である。学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。②成績評価から知識・意欲に関する達成度も高いこと、知識理解も高いこと、また関心意欲も高いことから内容的には妥当である。③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業のレジュメについては、個人情報を含むスライド内容が含まれていたため印刷できないものもあったので、今後は内容を修正するなどして配布できるように準備を検討したい。口頭での説明を把握するのが大変な学生もいたようだった。テスト、レポート、提出物の評価基準は明らかであった87%、期間内に行うべき学習範囲や課題は明らかであった87%、説明は理解しやすいものであった82%。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	栄養学科専門教科としての位置づけから、基礎的知識・応用的知識・思考判断・意欲関心・技術表現の形成については概ね達成できた。今後は、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、復習・課題を意欲的に提示するなども加えていきたい。また、図書館利用やインターネットの活用が増えるように授業の中で紹介するなどを試みるのが課題である。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、昨年度とほぼ同様に、「必修科目である(61.5%)」と「資格取得に必要である(61.5%)」が高く、一方「関心のある内容である(7.7%)」は低い値であった。授業では、できるだけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、興味の喚起を促してきたが、引き続き授業に対する関心を持てるように改善を図りたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績では9割以上の受講学生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点と中央値はほぼ4.0であった。昨年度とほぼ同様の傾向であった。最も得点が低かったのは、「コミュニケーションや表現力」だったが、これは短期間（1単位分の授業回数）の講義形式という性格上、やむを得ないとする。今回の目標達成状況の改善が「意欲関心」の向上につながるように、さらに授業の工夫を行いたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業への「意欲関心」の低さや、その点とも関連して全般的に主体的な学習活動が低い傾向になる。また、昨年度と同様に、自由記述では「他の講義の課題が多く、時間がない」といった意見が多かった。しかしながら、学生は一定の成績をおさめていること、到達度自己評価も全般的に高かったこと、さらには「授業の内容について、より詳しく調べようとした」との意見もあることから、授業の内容は妥当であったと判断した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、昨年度と同様の傾向だった。引き続き可能な範囲で、学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」「自発的学習」「図書館利用」がかなり少なかった。この点については、授業時間内においても、学生が図書館やネットを利用して調べ学習を行う時間を設けるなど、引き続き学生の主体的な取組みを促したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後も、「意欲関心」を高めるために、ビデオ教材の活用、グループワークを設定するなどの改善を行いたい。さらに、介護と「栄養」や「管理栄養士の働き」と関連づけて課題を呈示するなど、図書館などにおける主体的な学びを促したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、卒業必修科目であり管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、臨地実習Ⅲにも必要な科目であるが、受講動機をみると「必修科目である」96.0%、「資格取得に必要である」28.1%と2つの数値にかなり差があること、「関心のある内容である」8.0%と1割にも満たないことは管理栄養士が幅広い職域で活躍しているイメージしにくいことが課題の一つとしてあげられる。 ②本科目の達成目標は、わが国の健康・栄養問題の現状と課題を知り、それらに対応した主要な栄養政策・施策を理解し説明でき、栄養関連法規、地域や集団の健康の保持・増進さらに疾病の予防に対する公衆栄養活動を効果的に行うために必要な知識と技術を修得することである。例年公衆栄養学が何を学ぶのかイメージしにくいことから、事例を示しながら理解が深まるように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価は定期試験、レポート提出、小テストで行い、最終的な成績の平均値は74.1（±9.0）点であり、理想的レベル（80点以上）に達したものは8名(22.9%)で、その中で90点以上が3名(8.5%)であった。なお、71.4%の学生は標準的レベル(70点以上)に達していた。 学生による授業評価においては、知識理解の観点、意欲関心の観点で余り差がないことが示された。学生が学ぼうとする姿勢によって理解度に差が生じることが考えられる。次年度に向けて、学生に学ぼうとする意欲を持たせ、課題を検討する力、課題解決のための的確な判断力を身に着けることができるよう授業内容を工夫していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、専門分野の知識を修得する位置にあり必須である。専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。専門職業人としての知識の修得に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみての内容の妥当性 学生の達成度自己評価においても、ほぼ全ての学生が知識理解の修得ならびに意欲関心の修得等において、「達成できた」と回答しており、内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」平均値が3.7と低かった。事例をあげて説明を行ったが、理解できていない学生がいたこと、「予習をしない」学生が40.0%、「復習をしない」学生が20.0%いたことが反省点である。次年度に向けては、予習・復習を事前に提示して自分の言葉で理解した上で授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士養成施設卒業必修科目であり、専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の知識形成については学生間で差が見られた。予習・復習や授業の課題以外の学習に取り組んだ学生が少ないことから、予習・復習等の提示を明確に行うことで改善を図りたい。また、必要に応じてレポートという形での課題提出やディスカッションをするなど、知識・理解の達成に努めたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、臨地実習Ⅲを受講する学生の必須科目としての位置づけであり、多くの学生の受講動機が『必修科目である75.0%』『資格取得に必要である70.0%』との理由であるのは当然のことと思われる。 本科目は、①地域栄養活動実践の概要と行政組織、②地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法、③地域栄養活動の様々な場における管理栄養士の専門的な業務や活動の実際を理解することにより、行政で活躍する管理栄養士の役割を理解することを目的としているため、行政組織や地域で活躍する管理栄養士の講義を取り入れ、行政管理栄養士の役割や公衆栄養活動の理解が得られやすくなるよう努めている。 また、グループワークを取り入れることにより、学びを深めるよう計画した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価はレポート提出、発表で行い、最終的な成績の平均値は80.2（±9.8）点であり、理想的レベル（80点以上）に達したものは64.7%であった。 学生による授業評価においては、意欲関心の観点、態度の観点、技能表現の観点で大きな差がないことが示された。学生が学ぼうとする意欲や関心が態度に現れ、そのことにより技術の修得に差が生じることが考えられる。 学生が学ぼうとする意欲を持たせ、行動や技術の修得につながる演習やグループワークを多くするよう授業内容を工夫していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は管理栄養士を目指すための「専門科目」であり「臨地実習Ⅲ」の必須科目である。臨地実習Ⅲは行政栄養士の業務を体験修得する科目であることから行政栄養士の業務を理解するように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価の「自分なりの目標を達成した」3.8「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」3.9であり、授業に参加するための予習、復習も約半数以上の学生が4～5回実施していることから、課題の説明を丁寧に行ったことは妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.2と他の項目より低かった。行政管理栄養士の業務を理解してもらうために毎回講義内容が異なったため、理解できていない学生がいたことが考えられる。また「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであったか」の項目において、「そうでない」と回答した学生もいたことから、学習の範囲や課題について丁寧に説明するべきであったことが反省点である。次年度に向けては、具体例をあげ理解を図ったり、質問の時間を設ける等工夫をしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の知識形成については概ね達成できた。授業過程を振り返ると臨地実習の課題に取り組む時間が多かったため「課題以外に学習に取り組まなかった」学生が65%いる。地域の栄養・健康づくりを担う管理栄養士の役割を理解させる時間とすることができなかった。授業構成を工夫して、行政管理栄養士への道を達成するための意識改革を図りたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	永田 純美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理論	2	後期	選択	はい	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、選択科目ではあるが、栄養士・管理栄養士必修科目である。給食計画論で修得した栄養・食事管理をはじめとする、実働作業システムに関する知識を基に、給食の経営に関わる支援システムについて学ぶことにより給食経営管理全般の知識を修得する。また、同時に開講される、給食経営管理実習Ⅰで実践的な給食経営管理を行っていくために必要な科目でもある。 ②受講動機をみると「必修科目である」が92.3%、「資格取得に必要である」が42.3%、「関心のある内容である」が7.7%、「単位数を確保する」が15.4%であった。 この結果より、講義への関心は低いが栄養士・管理栄養士必須科目であること、単位や資格取得を目的に履修していると思われる。 ③実践のための理論を学ぶため、知識を実践でどのように活かしていくのかを演習も交えて講義することを心がけた。また、実務家教員として現場での知識の活用方法についても説明した。小テストを実施し、知識の定着と管理栄養士国家試験に触れる機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達自己評価は平均値3.4～4.0点、中央値4.0点となり、全体を通してやや達成されたと考えられる。特に「（2）知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」については4.2となり、小テストや国家試験問題により、知識の確認や修得につながったと考える。 知識理解（DP1）、思考判断（DP2）を定期試験、関心意欲（DP3）を小テストにて評価した。定期試験の結果は平均点64.7±10.7点となり、標準的な理解度は得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門教育科目の専門分野に該当する。選択科目ではあるが、栄養士・管理栄養士資格の要件科目であるため、受講動機においても「資格取得のため」が44.4%と「必修科目である」に次いで多い。授業の質評価で「説明は理解しやすいものであった」のそうだと思うと回答した学生は100%であったことから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 授業の質の評価は平均点3.9～4.0点、中央値4.5点であり、全体的な授業の質としてはおおむね良好な評価であった。到達自己評価も同様の結果を得ることから、内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスに掲載している給食経営管理論として必要な項目については全て講義できた。また、小テストや演習を盛り込むことにより、聞くだけではなく考える授業にすることができたとする。授業記録については全ての学生が「主に配布資料に記録した」と回答しているため、授業資料が有効に活用できていると思われる。学生からの意見はなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義全体としてはおおむね良い評価であった。「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」の中には小テストを挙げている学生が数名いた。少なからず小テストが予習・復習のきっかけになったと思われる。引き続き、小テストや演習、管理栄養士国家試験問題などを盛り込み、聞くだけではなく、聞いたことについて考えて応用できるような講義を目指したい。受講動機としては、「必須科目である」ことが92.3%であるため、受講する中で給食経営管理に興味をもってもらえるような内容にしていくことも今後の課題であるとする。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養学実習	2	後期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機に対する回答(受講者37名中34名が回答)で、回答したすべての学生(34名中34名)が「必修科目である」ことを理解しているにもかかわらず、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのは9名(26.5%)と少なく、また、「関心のある内容である」と答えたものはわずか2名(5.9%)であった。栄養学の基礎知識・技術が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも重要な基礎的事項であることは、例年、強調しているが、なかなか浸透しない。関心が高まるように、できるだけ身近な事例に結びつけて説明していきたい。 ②今年度は栄養学を受講した学生数が37名であったため、1クラスで実施した。(例年は2クラス) ③2023年度はある程度新型コロナ感染が落ち着いたので、すべての実習を対面で実施した。ただ、可能な限り密にならないように間隔をとって着席し、換気にも十分留意して実施した。また、実習中は基本的にマスクを着用し、グループ作業も必要最小限にとどめるようにした。 ④それぞれの実習について、その栄養学的意義について考えさせるためのレポートを課し、1、2年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①今回の成績評価は、昨年と同じく実習課題のレポート（45％）、「知識・理解」・「思考・判断」を評価する期末試験（45％）および、「関心・意欲」を評価するその他（10％）とした。 ②実習成績の平均点は78.8±11.9点で、合格者は37名中33名であった。90点以上の好成績を修めたものは7名、80～89点が14名、70～79点が9名、60～69点が3名、60点未満の不合格者が4名であった。不合格者4名のうち3名は再試験で合格し、1名は再試験を受験しなかった。今年度の実習成績(78.8)は、昨年度(平均点Aクラス:74.2、Bクラス:79.6；昨年度は2クラス)とほぼ同じレベルであった。 ③今回の実習は、すべて対面で実施したが、新型コロナ感染予防のため、一つの測定は各グループの代表1名が責任を持って実施するようにした。実習でグループ作業ができないのは実習本来の目的からは逸脱する面もあるが、学生の授業評価アンケートの"到達度自己評価"では、この科目のDP1(知識・理解)、DP2(思考・判断)およびDP3(関心・意欲)に関連する項目(1)～(6)の評価点が3.6～3.8で、同じく対面で実施した2022年度(3.9～4.1)、2021年度(3.8～4.0)よりやや低い評価であった。今回の評価がやや低かった原因は不明であるが、今年度は同じ対面でも、昨年・一昨年に比べると班の代表者が一人で測定する機会が多かったのが影響しているのかもしれない。(昨年・一昨年は、感染予防のために実際の測定は教師によるデモが多かった) 実習成績（実習課題レポートと期末試験）の成績は、ほぼ同じレベルなので、教育目標はおおむね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 2023年度の実習は、昨年度と同じく、コロナ感染予防のためにすべて対面で実施したが、「密」にならないようにグループ作業をできる限り制限した。実習の目的の一つであるグループ内での共同作業が十分でなかったのは、実習としては残念なことであった。ただ、各実習で実際に測定するのはグループ内の代表者一人とはいえ、実際の測定を経験する機会が増えたのは、オンライン実習よりよかった点である。測定結果に対する考察、実習テーマに関する設問への回答などは、代表者が測定したデータを共有することによって、各班員が個別に実施することができた。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 各実習の課題レポート、期末試験については、全員がほぼ良好な成績を収めていることから、DP1～3が目指す目標のうち、「栄養学の基礎的知識を栄養指導・栄養教育の現場に活用できる」という基本的な部分においては、おおむね達成できていると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度(2023年度)の実習は、コロナ感染予防に十分注意してすべて対面で実施したが、“授業の質評価”の評価点(3.6～4.2)は、昨年度(2022年度)の実習(対面で実施したが測定そのものは教員によるデモまたは動画が多かった)の評価(3.7～4.1)とほぼ同レベルの評価であった。項目別に昨年度と比較すると、項目(1)「テスト、レポートなどの評価基準の明確さ」が共に4.1、項目(2)「期間内に行うべき学習の範囲や課題の明確さ」の得点が今年度4.2、昨年度4.1と比較的高い評価(栄養学科平均各々4.1, 4.1)であった。項目(3)「説明の理解しやすさ」(3.6)は、昨年より－0.1下がっていた。実習レポート、期末試験の成績もかなり良好であったことより、授業の目標は概ね達成できたと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①実習レポートおよび期末試験の成績が良好であることより、栄養学の基礎的な知識の形成については、概ね達成できたと考える。 ②一人の学生から「自分の一日の食事量を記録した」というコメントがあったが、実習で学んだことを日々の生活に活用することで、“栄養学”がより身近になることは大変いいことである。他の学生にも推奨していきたい。③実習資料は、毎年分かりやすくなるように改訂しているつもりであるが、更に、学生の要望も聞きながら改訂していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	森山 美加代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この教科は実習であり、実際に体験しながら習得していく選択教科ではあるが、受講動機をみると「関心のある内容である」が12.5%と低かった。 授業では、身近な症例や栄養評価を行うための具体的な演習を行い、関心がもてるように取り組んだ。また、グループワークを取り入れ、コミュニケーション能力を身に着けるようにも取り組んだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の評価は、レポート提出状況、ロールプレイング、プレゼンテーション発表等の総合的な判定とし、平均値は70.5点であり積極的に授業に取り組んでいたと思われる。 特に、到達度自己評価では、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値4.3点と高く、自信を持つことができたのではないかとと思われる。 学習量の評価について、事前の準備や復習に取り組んだ学生が半数ということで、実習の教科としてはもう少し事前準備や復習に取り組んでもらえるような授業の進め方を検討したいと思う。 また、半数以上の学生がインターネットを利用した検索を行っていることから、正しい情報の取り入れ方なども伝えていこうと思う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、本科目は選択教科ではあるが、これまでに座学で学んだ専門分野の科目を実習として経験を積む教科であり、内容的には妥当であるとする。 DP、行動目標からみての内容的妥当性については、特に「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「課題を検討する力を得ることができた」の評価が良く、実習としての教科の到達度を得ることができたのではないかとと思われるため、内容的には妥当であったと考える。 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、実習の教科らしく「授業中のに、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の評価が平均4.5ととても高く、積極的に授業に取り組んでもらえたのではないかとと思われる。 今後も、学生が授業に参加しやすい取り組みを考えていこうと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価からみると、実習の教科らしく学生の積極的な授業の参加がみられたが、事前の準備や復習に取り組んだ学生が半数だったことから、課題の提示方法を検討したいと思う。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	渡邊 和美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	医療・福祉に従事する管理栄養士の主要業務は、「栄養管理業務」「給食管理業務」に大別される。本実習では、実務家教員として、医療施設における栄養管理の流れを学生が理解でき、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通じて、栄養・食事療法に対応できる知識および技術を修得できることを大切にしたい。また、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、学生が栄養管理プロセスの一連の流れを理解できることに重点をおいた。受講動機としては必須科目である92%、資格取得に必要である62%、関心のある内容である15%である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は70点であった。再試験対象者は12人であった。ほぼ全員が標準的レベルに達することができた。理想的レベル（80点以上）に達した者は16名であった。項目別にみると知識意欲に関して96%、思考判断96%、技術を身につけるは96%、コミュニケーション力や表現力を高めることができた96%、職業倫理や行動規範について学ぶことができた96%、職業選択の参考になった100%であった。学習量の評価では約1時間程度の予復習時間については、73%の学生が1回～11回と回答している。授業の記録作成は、主に配布資料に記録した96%、記録しなかったが4%であった。情報利用としては、履修する際にシラバスの記載を参考にした58%であり、教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てたは45%であった。図書館利用では、図書館の図書、雑誌を利用した15%、インターネットのホームページを検索し、利用した54%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP 本教科は栄養学科専門教科の中の「必須」であり、栄養士、管理栄養士、栄養教諭一種免に必要な単位である。学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。②成績評価から知識意欲に関する達成度も高いこと、思考判断、技術を身につける、コミュニケーション力や表現力を高めること、職業倫理や行動規範について学ぶことができた、職業選択の参考になったなどの評価も高いことから、内容的には妥当である。③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題がないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生が理解しやすいように例えを用いて説明をしたが、その真意に理解が得られていなかったため、さらにポイントを絞って簡潔に説明するように心掛けたい。基本的な調理技術の再指導する必要性があった。授業の質評価では、評価基準は明らかであった85%、学習の範囲や課題は明らかであった77%、説明は理解しやすいものであった77%、授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた88%、口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けて、それに答える機会が作られていた100%であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	栄養学科専門教科としての位置づけから、基礎的知識・応用的知識・思考判断・意欲関心・技術表現の形成については概ね達成できた。今後は、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、復習・課題を意欲的に提示するなども加えていきたい。また、図書館利用やインターネットの活用者が増えるように授業の中で紹介するなどを試みることを課題とする。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、必修科目であり、臨地実習Ⅲを受講する学生の必修科目としての位置づけである。 全ての学生の受講動機が『必修科目である』との理由であるのは当然のことと思われるが、『資格取得に必要である』が41.0%と半数以下であることは、地域集団の栄養・健康づくりを推進することが管理栄養士の専門知識に必要であることと関連できにくいことからくるものと思われる。 本科目は、①対象集団や地域の特性を把握し、適切な社会資源を活用した公衆栄養プログラムを作成することができる。②健康的な食環境を提案することができる。③適切なニーズ・アセスメントを選択・実施し、プリシード・プロシードモデルに基づいた評価判定ができる。この技術を修得することにより、地域で行われている健康・栄養改善活動業務の中での管理栄養士の役割を理解することを目的としているため、よりよい公衆栄養プログラムを作成するためグループで協議を行い完成していく課程を修得するため実習を中心として、学びを深めるよう計画した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価はレポート提出と発表で行い、最終的な成績の平均値は71.1（±5.0）点であり、67.3%の学生が標準的レベル(70点以上)に達した。理想的レベル（80点以上）に達したものは9.1%と低かった。 学生による授業評価においては、意欲関心の観点では大きな差はないが、知識理解の観点、思考判断の観点で差があることが示された。学生が学ぼうとする意欲や関心はあるが、知識理解や思考判断力の差が技術の修得に差が生じることが考えられる。次年度に向けて、知識や理解力、思考判断力を身につけさせるよう授業内容を工夫していきたい。 学生による授業評価においては、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」が他よりも低いことから当初の目的が達成できなかったと考えられる。 次年度に向けて、学生が学ぼうとする意欲や関心を引き出し、知識理解、思考判断力が修得できるよう工夫していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門教育科目であり、専門分野を修得するための実習に位置付けられており、必修である。専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。専門職業人としての知識の修得に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の達成度自己評価においても、約90%の学生が知識理解の修得ならびに意欲関心の修得等において、達成できたと回答しており、内容的には妥当であったとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.4と他の項目より低かった。より具体的な事例をあげたり、グループワークでは各グループを回りながら説明を行ったが、それでも不十分であったと考えられる。また、「授業の課題以外に学習に取り組んでいない」学生が66.7%いることから、学習意欲を持たせる努力が足りなかった。次年度に向けては、質問の時間を設けたり、グループワークの進捗状況に沿った助言をするようにしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士養成施設卒業必修科目であり、専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の知識理解の修得については概ね達成できた。グループワークで公衆栄養プログラムを作成することから、自分で調べることが必要であるが、図書館を利用していない、学術データベースを利用していない学生が半数以上いることから、先行事例を調べることをもっと取り入れ理解を深めるように工夫していきたい。またディスカッションの回数を増やし、知識理解の達成に努めたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	永田 純美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅰ	2	後期	必修	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であり、臨地実習Ⅰおよび栄養士・管理栄養士の要件科目である。そのため、受講動機は「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」が30.4%占めている。 ②給食経営管理実習Ⅰは給食計画論で修得した知識を実践していくための実習である。給食を計画していくためのアセスメント方法、給与栄養目標量の設定や食品構成の作成方法について演習を通して学び、献立作成へとつなげる。実習では基礎献立を調理し、給食現場における調理手法、大量調理機器の使用手法、衛生管理について実践的に学ぶ。実習後は評価・改善を行い、給食の品質向上につなげる。 ③臨地実習Ⅰの要件科目であるため、社会性や礼儀といった指導にも重点をおいている。 ④献立作成および試作を行い、給食経営管理実習Ⅱでの提供献立を作成する。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価においては平均値が4.2～4.4点、中央値が4.0～5.0点となり、教育目標はやや達成されたと考えられる。 DP1は定期試験とレポート外提出物（帳票）で評価した。定期試験は平均点66.7±17.2（100点満点換算）となり、標準的な理解度は得られた。しかし、全体的に計算問題の不正解が目立った。演習において、計算が苦手な学生が多かったため詳しく解説を行ったが、定着できなかった可能性がある。DP3は実習貢献度、DP5はレポートで評価した。総合評価としては、平均点71.4±17.0（100点満点）となり、全体を通してはやや達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門教養科目」「専門分野」であり、卒業および栄養士・管理栄養士資格取得のための必修科目である。また、臨地実習Ⅰの要件科目でもある。受講動機においては「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」が30.4%であること、到達度自己評価の専門分野に関する項目については平均値4.3～4.4点、中央値4.0点であることから専門的な知識・技術の修得ができていると思われるため、内容的に妥当であると考えられる。 ② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価は平均値が4.2～4.4点、中央値が4.0～5.0点、授業の質評価は平均値が4.4～4.5点、中央値5.0点であることから教育目標は達成されていると思われるため、内容的に妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価がおおむね良好であったため、授業の進め方に大きな問題はないと考えられる。学習量の評価で、授業の記録は「主に配布資料をに記録した」学生が100%であることから配布資料を有効に活用できたと思われる。授業に参加するための準備・復習に関しては、60%以上の学生が1回以上と答えており、学生が前向きに授業に取り組む姿勢が見られる。到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均点4.4、中央値5.0と全項目の中で一番高い評価となった。本実習は班活動が多いため、その中でコミュニケーション力の向上が図れたと考える。今後も学生間のコミュニケーション状況を常に確認し、班活動が円滑にいくようサポートおよび指導を行う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的評価としては良好であったと考えられる。到達度自己評価、授業の質評価においては高い評価を得ることができ、学生の実習に対しての積極的な取り組みが見れたことから充実した内容であったと思う。今後の課題として、計算を苦手とする学生が多く、演習では丁寧な説明を心がけたが定期試験での正解率は低かった。演習では理解できたとしても、計算に必要な数値が変更されると対応できていないと思われる。近年の管理栄養士国家試験においても、計算問題の出題数が増えているため、応用力を養えるような指導をしていく必要がある。また、本実習は班活動が多いため、班内での知識理解に差が生じると作業量にも差が生じてしまうことがあり、そのような学生間での差を埋めることも課題である。 臨地実習Ⅰの要件科目でもあるため、実践的な技術指導はもちろんのこと、社会性を身につけることができる指導を心がけたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅰ	4	通年	選択	いいえ	63

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『社会・環境と健康：公衆衛生学、健康管理概論等』『人体の構造と機能および疾病の成り立ち：解剖生理学、生化学、病理学、疾病診断治療学等』『食べ物と健康：食品学、食品加工学、食品衛生学、調理学』『基礎栄養学』『応用栄養学』分野の管理栄養士国家試験の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。 本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、学生全員が『管理栄養士国家試験合格』を目標としていることから、学生の受講動機が『必修科目である86.5%』『資格取得に必要である54.1%』との理由であるのは当然のことと思われる。管理栄養士演習Ⅰ、Ⅱは週2コマの講義であり、この講義のみでは国家試験受験対策の学習支援としては到底不十分であることから、2023年度も、別途、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ担当教員による学習支援（国家試験対策の補講）を実施し（前期：6コマ/週、後期：8コマ/週および夏期補講、直前補講）、授業時間以外でも自主的に学習できるように、国家試験受験への手厚いサポートを行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1およびDP2は本試験の結果から評価した。本科目の本試験成績の平均値は61.6±15.3点(57名)であり、63%の学生のみ標準的レベル(60点以上)に達することができた。残りの37%は本試験不合格であった。実際には、『秀：1名』『優：6名』と理想的レベルに達している学生は12%しかおらず、『良：9名(15.8%)』『可：20名(35%)』であった。またこの科目を落とし、管理栄養士受験資格を失効した学生数は10名（17.5%）と多数であった。しかし、学生の到達度自己評価では、96%の学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答しており、学生による自己評価と試験結果に乖離が見られた。一方、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』（89%）と多くの学生が回答していた。自由記載欄にも過去問等に取り組んだことを記載していた。これらのことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想されるが、今回の第38回管理栄養士国家試験合格率は、67.4%と非常に低く、昨年の91.4%と比較してもかなり厳しい結果となったため、観点別の達成状況は、DP1,DP2,全体を通して「どちらともいえない。」と回答している。1月に実施される本試験の時点で、「標準的レベル」にまで学生を到達させることが管理栄養士国家試験合格への必須事項である。講義の質を上げることに加え、学生の講義への出席率向上に向けた取組みが急務である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年次に通年科目として開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の到達度自己評価においても、約96%の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、「達成できた」と回答している。達成度評価からは、この教科の内容的妥当性についてはほぼ問題ないものとする。しかし学生個々が国家試験合格を目標としているのであれば、履修者全員が標準的レベルを達成すべきではあるものの、実際は最終的に82%（追再試結果）と低い値であった。その後フォローしたにも関わらず、第38回管理栄養士国家試験において、67.4%と低い合格率であったため、管理栄養士演習Ⅱ同様に、原因の解析を行った結果、3年次、遅くとも4年次の夏までには学力を上げておくことが重要であること、また4年次の講義出席率が成績と大きく関連していたことが明らかとなった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、予習復習の時間は約38%がゼロと回答したにも関わらず、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)約89%』と回答していたことから、実際には、予習復習の時間は確保されていたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の管理栄養士免許取得のための科目として位置づけられてはいるが、2023年度も標準的レベルに達した学生が少なかった点に関しては、毎年度の学生の学修レベルを考慮し、試験方法、予習・復習の実施等の見直し等行っていく必要はある。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しているので、講義内容等についての問題はないものとする。今年度の国家試験結果を受け、教員側も成果の出る講義内容とするよう改善につとめなければならない。今後も提供できる学習環境の整備を含め、国家試験直前まで、学科として学生を支援していく必要があり、常時の検討課題とする。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『栄養教育論』『臨床栄養学』『公衆栄養学』『給食経営管理論』分野の管理栄養士国家試験の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、学生全員が『国家試験合格』を目標としていることから、受講動機は『必修科目である』が88.9%、『資格取得に必要である』が61.1%であった。 管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱは週2コマの講義であり、この講義のみでは国家試験対策としては到底不十分であることから、2023年度も別途、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ担当教員による国家試験対策の補講を前期・後期の1年を通して実施した。また、夏期期間中、年末、国家試験直前時期においても対面での学習支援講座を開講し、国家試験受験対策として講義の枠を超えた手厚いサポートを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1およびDP2は本試験の結果から評価した。本科目の本試験を受験した56名の平均値（標準偏差）は60.9点(11.1)であり，標準的レベル(60点以上)に達することができた学生は35名（62.5%）のみで，残りの21名（37.5%）は本試験不合格であった。80点以上（優）の理想的レベルに達している学生は1名（1.8%）のみで，70点以上（良）が13名（23.2%），60点以上（可）が21名（37.5%）であった。本試験不合格者のうち，2名は辞退，6名は再試験でも不合格であった。しかし，学生の到達度自己評価では，全て（100%）の学生が「自分なりの目標を達成した」と回答しており，学生による自己評価と試験結果に乖離が見られた。但し、本科目の受講者56名に対してアンケート回答者数が36名と少なかったことから，本試験不合格者は未回答が多かった可能性も考えられる。 一方，本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため，自発的学習として『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』と回答した学生は97.2%と多かった。このことから，学生の自主的な学びの科目としては，本科目における教育目標は達成できたものと推測する。しかし，今回の第38回管理栄養士国家試験合格率は67.4%と非常に低く，昨年の91.4%と比較してもかなり厳しい結果となった。1月に実施される本試験の時点で，「標準的レベル」にまで学生達を至らせることが管理栄養士国家試験合格への必須事項である。講義の質を上げることに加え，学生の出席率向上に向けた取組みが急務である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年次に通年科目として開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しているため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、10項目のうち、コミュニケーション力や表現力の項目を除く9項目において9割以上の学生が肯定的回答をしていることから、本科目の内容的妥当性についてはほぼ問題ないものと考えている。 但し第38回管理栄養士国家試験では合格率が低かったことから、原因の解析を行った結果、3年次、遅くとも4年次の夏までには学力を上げておくことが重要であること、また4年次の講義出席率が成績と大きく関連していたことが明らかとなった。毎年度の学生の修学レベルや学習環境に応じて、講義形式や国家試験直前のフォローの仕方を検討する必要があると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自己学習は必須である。アンケートにおいて、「予習をした」と回答した学生は23名（63.9%）であったのに対し、「復習をした」と回答した学生は30名（83.3%）であったことから、復習に重きを置いた学生の方が多かったことが推測できた。国家試験の過去問題や業者模試の解説を行う講義が多いことから、その日の講義で取り扱った問題は確実に当日のうちに復習して習得する習慣をつけるよう促していくことが重要と考えられた。 アンケートの自由記述内容の中に「自分のペースで勉強しているため、当てられるのは苦痛だった」との意見がみられた。確実に知識を習得できているかの経過を確認するために、学生に適宜回答を求めることは必要であると考えている。但しこの確認は必ずしも正答を求めているわけではなく、理解が進んでいない項目を重点的に説明することに利用している。教員側は学生ができるだけ過度な負担を感じない配慮をするとともに、講義外でのフォローについても徹底していかなければならないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の管理栄養士免許取得のための科目として位置づけられてはいるが、2023年度も標準的レベルに達した学生が少なかった点に関しては、毎年度の学生の学修レベルを考慮し、試験方法、予習・復習の実施等の見直し等行っていく必要がある。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が肯定的回答をしていることから、講義内容等についての大きな問題はないものとするが、国家試験の合格率の低迷を受け、さらに質の高い、成果の出る講義内容とするよう改善につとめなければならない。担当教員間で密に連絡を取り合い、学習環境の整備を含め、国家試験直前まで徹底的に学生をフォローしていく必要があり、常時の検討課題とする。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育基礎	1	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、管理栄養士を目指して入学してきた1年生に目的意識を明確にさせ、2年生後期から始まる様々な専門科目の受講につながることを意識した組立とすることを主眼に置いて、2023年度より新設した科目である。本1年生における受講動機は、「必修科目である」が100.0%、「資格取得に必要である」が22.0%であり、「関心のある内容である」は9.8%であった。より多くの学生に関心をもってもらえるよう入口の説明のハードルはできるだけ低くし、発問や演習を多く取り入れることで積極的に講義参加してもらうように配慮した。 講義初回に各学生の近い将来の夢を確認したところ、約7割の学生が管理栄養士や栄養教諭、関連の資格取得を挙げていたことから、専門職に就く上で欠かせない知識の伝達に重きを置いた。 また、栄養教育論に関する基礎的知識の定着を図るため、計4回の小テストを行い、復習への意識を高めるとともに、学習の定着状況を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験の得点の平均値（標準偏差）は88.2（7.0）点であり、90点以上が45.2%、80点以上90点未満が40.5%、70点以上80点未満が11.9%で、合計で97.6%が70点以上に達した。平常点を加味した最終成績の内訳（履修放棄者を除く）は、Aは15人(35.7%)、Bは15人(35.7%)、Cは10人(23.8%)、Dは2人(4.8%)、Eは0人(0.0%)であった。 項目別に見た平均値（標準偏差）は、知識理解を問う問題（70点満点）が65.1（3.0）点、知識の応用力を確認する問題（20点満点）が16.6（4.2）点、記述問題（10点満点）が6.4（2.1）点、であった。記述力に課題はみられるが、知識理解の得点率は非常に高く、目標は達成されたと判断した。意欲関心や態度については、講義への出席率や毎回の小テストの成果、指名質問に対する回答内容等から判断して、おおそ目標は達成されたと判断した。 学生による到達度自己評価では、「自分なりの目標を達した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が95.1%、「的確に判断する力を得ることができた」が97.6%肯定的回答をしており、他の項目においても肯定的回答が多くを占めていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、必修である。管理栄養士国家試験の受験科目の一つではあるが、2年生後期から始まる「栄養教育論Ⅰ」で学ぶ様々な理論の理解につなげるための基礎的事項を習得させることに重きを置いた。栄養教育手法を学ぶ上で基本となる概念やカウンセリングの意義や特性について解説するとともに、管理栄養士に必要とされる知識・技能・態度の養成につとめた。受け身的な受講にならないように演習を多く取り入れ、毎回ワークシートや課題の提出を求めた。計4回実施した小テスト及び最終の本試験において一定以上の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価の全項目において、95%以上が肯定的回答をしていた。このことから内容的妥当性は高いと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では「評価基準は明らかであった」で95.1%, その他の全項目で97.6%が肯定的回答をしていた。課題の内容をはっきりと提示し、かつ提出されたレポートにはコメントをつけて返却をしたことで、比較的理解を得られたのではないかと考えている。また、演習形式を数回取り入れたことで参加型となり、意見発表を求めた場面でも複数人の手が挙がるなど積極的な姿勢が随所でみられた。 授業の課題以外で取り組んだ学習としては、「小テストの勉強」との回答が最も多かった。中には「授業のポイントをまとめた」、「分からないところを調べた」等の回答もあり、授業態度も含め非常に意欲の感じられるクラスであった。 この『栄養教育基礎』で教示した事項を、次の『栄養教育論Ⅰ』及び『栄養教育論Ⅱ』につなげていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	栄養教育を担う管理栄養士に求められる、プロフェッショナル、課題対応能力、コミュニケーション能力、倫理観等の様々な資質や能力の基礎を養成するという観点から、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、記述力・応用力の養成までには至らなかった。また、一部に興味を持ち切れなかった学生がいたことは課題である。後期の講義開始直後から欠席が目立つ学生に出席を促すことは難しかった。これは学科全体で重点的に対策を考える必要がある。 これまでは2年生の後期から開始していた栄養教育論の専門科目の講義を1年生後期に前倒しして開講したことで反応や理解度にやや不安はあったが、難易度の高い行動理論等の内容はこれまで通り2年生に回し、比較的理解しやすいカウンセリング技法等を先に教示したことで、スムーズに対応できたのではないかと考えている。2年生後期では既に管理栄養士という職業に期待が持てなくなっている学生が多かった印象だが、1年生では積極的な姿勢が感じられた。管理栄養士として必要な知識を広く浅く教示したという段階であるため、今後の講義でより深い知識へとつなげていきたいと考えている。 以上から、今後は、より専門的な知識の定着につながるような学習に導くこと、応用力や実践力を養成することに力を入れていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用生理学	1	後期	必修	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。 ②講義資料は、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。 ③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。 ④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を学生自身が確認できるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は44名中34名で再試験者は7名であり、再試験を受験した2名が合格した。最終成績の平均点は69.7±11.9点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）にほぼ到達していると考えられる。標準的なレベル（概ね70点以上）は18名おり、そのうち理想的なレベル（概ね80点以上）が7名いた。来年度は、平均点が標準的なレベル（平均点が70点以上）を超えるよう、工夫したい。具体的には、講義資料を前もって予習してきてもらうなどを考えている。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」などについては、「少しそうでないと思う」以下が最大2割程度いるが、講義の性格上こういう機会が少ないことに大きな問題はないと考えている。 ③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったので、課題を与えて図書館およびインターネット等の利用を促したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.0と、学生にとって満足度が低かったように思う。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。講義で使用したスライドおよび資料は全て印刷をして配布し、予習・復習をできる環境を整えていたにもかかわらず、自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることのみならず、積極的に予習、復習する動機づけを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。 配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①当該科目は必修科目であり、また、管理栄養士国家試験の際に学生が苦手とする基礎系の科目の一つである。食品ごとの成分の特徴、機能性、加工上での特性など情報量が多いので、国家試験の出題傾向等を提示しながら、ポイントをまとめた講義にするよう心掛けた ②学生の受講動機は「必須科目である:97.4%」となっており、管理栄養士国家試験を念頭に置いた取り組みは非常に重要であると思われる ③各種食品がもつ特性を学ぶ教科であるため、非常に範囲が広い。「知識理解」を向上させるためには、自宅での事後学習が重要である。授業の目的を授業初めに提示して、その点については特に集中的に復習を行うよう促し、小テストによって理解度を確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	◎成績評価 成績平均値は69点であり、約83%が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したものは12名（34.2%）であった。再試験対象者は7名であった。最終的な成績評価（再試験終了後）でみると、92.8%が標準レベルに達していた。しかしながら、再履修者は1名発生した（2名は退学）。 ◎授業アンケート 学習到達度の自己評価では、「知識の確認、新たに得ることができた：平均値4.1」、「学びを深めたいと意欲を持つ：平均値4.2」、「必要な技術を身に付けることができた：平均値4.1」、「的確に判断する力を得ることができた：平均値4.1」の評価であった。 ◎学習量の評価 事前事後学習が0回の学生が昨年度よりも増加していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品に関する、成分特性、機能性、加工特性など、管理栄養士・栄養士として食品の基礎的知識を修得することは必須である。今年度より、新カリに移行したため半期前倒しでの開講であったが、一定の成績を収めていることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 最終成績評価から92.8%が標準レベルに達しており、学習達成度の自己評価も得られていることから、内容的にも妥当であったと考える
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価 「評価基準の適正：4.2」「学習の範囲や課題は明らかであった：4.2」「説明は理解しやすい物であった：4.3」と学生からの評価も概ね得られていると思われる。「自分の意見をまとめる、発表するなどの機会がもうけられている」の項目では3.6となっており、科目の特性上、発表や意見交換は難しいが、一方方向の講義にならないよう、学生の発言を促すよう次年度に向け改善が必要である。 ②自由記述 「専門的内容を詳しく説明され、わかりやすかった」「興味が沸いた」などの意見があった。当該科目は、専門基礎分野に該当し講義内容も幅広い科目である。そのため、学生が重点的に理解しなければならないことを提示し、事例などを用いて、科目事態に興味を持たせるよう今後も改善したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門基礎科目」に位置づけされている科目であり、「食品」に関する幅広い知識の習得に繋がる教科である。最終的な評価では92.8%が標準的なレベルに達しており、理想的レベルに達した学生数や平均点は、昨年度と比較すると高くなっていた。昨年度より実施している小テストや授業初めの目的や重点事項の提示は学生が事後学習する上で効果的であったと考えられる。授業後の復習を行う学生は前年度より減少していたため、学生が理解できていない点をお互いに共有する取り組みや、学習の仕方などについて話す機会を設けるなど検討したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用調理学実習	1	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは学生自身が調理操作を行い、実践力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため学生が自ら、多種のメニューを作れるよう師範の時間を短縮し、講義内容はテキストでの説明とポイントに絞り、自ら考え作ることができるように促した。 ②調理学実習の応用ではあるが、1年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという科学的根拠に基づいた理解ができていない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取り入れた。 ③1年前期との違いは、担当した献立のみを作成するのではなく、作業工程全体の流れを把握し、全部の献立が作れるよう指示・指導に努めた。 ④事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めにこれを提出させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績平均値は80.6±14.0点と標準レベルであった。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは42名中27名であった。2名が再試となった。 この2名に関しては、学力や理解力の低下のほか、欠席が多く意欲の喪失などが見受けられた。 この実習は実習後のレポート得点を重視するため、栄養価計算やレポートの内容により評価が左右される。 到達度自己評価のは3.8～4.0点、平均値4.0、中央値は4.0点であった。項目ごとに平均値と中央値を見ると、①自分なりの目標に達したが3.9、4.0点、②知識を得たが4.2、4.0点、③事象を理解するが3.8、4.0点、④課題を検討する力を得たが4.1、4.0点、⑤的確に判断する力を得たは、4.0、4.0点、⑥学びを深める意欲は、4.2、4.0点、⑦技術を身につけたが4.0、4.0点であった。⑧コミュニケーションを高めるが4.0、4.0、⑨職業倫理4.0、4.0点、⑩職業選択の参考は、3.8、4.0点であった。 授業の質評価では①評価基準が明らかが4.4、5.0点、②期間内の課題が、4.3、5.0点、③説明は理解しやすいものだったが4.0、4.0点、④話し合いや発表の機会が4.0、4.0点、⑤質問に答える機会が3.8、4.0点との評価であった。 以上のことより、1年前期の基礎調理から一貫して調理技術の習得に力を入れた結果、調理技術が向上し、自信となり、今後の学習意欲につながったと考えられた。 昨年に比べ、達成度自己評価が低下傾向にあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年前期の基礎調理学実習と1年後期の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であると考えている。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は3.8～4.4点、中央値は4.0～5.0点であった。学習するべき範囲は明らかで（4.3点）、説明は理解しやすかった（4.0点）の結果より、概ね学習のポイントを的確に理解し、修得できたと考えられる。 しかしながら、学習能力の低下に伴い、昨年度に比べ理解力の低下傾向が伺われた。 予習及び復習に関しては、毎週、実習を行うため、ある程度の予習が必要であり、また、実習後には、レポートや栄養価計算の課題の提出が必須であったことから、予習及び復習の時間が確保されたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ①初回は1年次の基礎調理学実習の復習を踏まえた実習内容にする、②毎週実習後の感想をレポートに記載してもらい、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。 例年、同じ内容や問題を出題しているにも関わらず、学力や理解力の低下が伺われる。学生のレベルに応じた個別の対応により、技術指導や学習指導を心がけ、学習意欲を高めることが重要であると感じられた。 1年次からの基礎専門科目であるため、学生にとって調理理論や調理技術の習得はプレッシャーである。そのうえ、栄養価計算やそれに伴う種々の計算を正しく理解し導き出すことも容易ではない。定期試験の後、できていない学生をわかるまで指導することが今後の課題といえる。1人1人のレベルに見合った指導を行い、留年や退学を招かないよう、未然に防止するよう努めていきたい。 学力の低下に伴い、達成度自己評価や授業の質評価が低下傾向にあった。今後の課題の1つである。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。 ②「教職コアカリキュラム」に、教育の原理的内容が含まれていることから、教育思想、教育制度の歴史をまず教授し、次いで現代的な問題について取り組んでいる。 ③1年生ということもありまだ教職への意識が強固とは言えない。したがって、教職を意識しつつ、市民的教養という側面からも教育・学校・子どもについて、知識や関心を持つように授業の構成を考えた。 ④学生同士の意見交換を大事にしたいと思い、グループワーク、ディベートを取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、授業への参加具合、小テスト、レポート提出の合計点で行った。 ②90点以上0名、80点以上90点未満2名、70点以上80点未満1名、60点以上70点未満6名であった。全体的に低調といわざるを得ない。 ③今回から、筆記試験（小テスト）を導入したために、バランスよく評価できたのではないかと考える。 ④グループワークに慣れていない面は見られたが、ディベートでは熱心な討論が行われた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけ 本科目は教職課程の科目であり、ほぼどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回は、これまでの学生の指摘を踏まえて発言などに留意をしたためか、特に否定的なコメントはなかったと判断する。基本的には毎回の授業後の感想によってその時々での学生の評価を重視している。授業についての指摘があれば、その正当性の有無にかかわらず次回にフィードバックしている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①現在の日本の学校教育において、急速にその内容と方法に変革が迫っていると感じている。様々な答申や通知などを受けて、急ぎ対応せざるを得ないものもある。常に新しい情報に接することが重要であるとする。 ②座学での学びには限界があり、アクティブラーニングを取り入れて主体的な学びとなるように構成をさらに工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○全学科：平均点80.4点、秀5人（8.6%）、優32人（55.2%）、良13人（22.4%）、可7人（12.1%）、不可1人（1.7%）。SD8.30。 ○栄養学科（昨年度）：平均点80.7点、秀1人（14.3%）、優2人（28.6%）、良4人（57.1%）可0人（0.0%）、不可0人（0.0%）。SD6.95。 ○栄養学科（本年度）：平均点72.4点、秀0人（0.0%）、優0人（0.0%）、良3人（60.0%）可2人（40.0%）、不可0人（0.0%）。SD5.57。 ○本年度は平均点を75点程度に想定した問題を作成し、難易度が上昇している。しかし、学科全体平均と比較して8ポイント、昨年度と比較して8ポイント低い。 ○標準偏差も小さく、学科全体として満足な成績ではなかったと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○昨年度の改善目標に挙げたように、試験問題は昨年度と比較して記述式問題および思考力を求める選択式問題を増やした。 ○授業内容は質・量ともに昨年と同程度であった。 ○本年度は次の2点に取り組んだ。（１）レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。（２）オンライン授業で活用されたクラスルーム機能を維持するため、資料の提供などを充実させた。（３）レジュメのデザインを読みやすいものに修正した。 ○到達度が昨年度より低下したのは、（１）試験問題の難易度が上がった（２）受講生の学習動機付けに問題があった、などの要因が考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○本年度は平均点を75点程度に想定した試験問題を作成しているが、やや物足りない結果となった。知識の定着については基礎的内容はある程度身につけているが、応用的な問題については不十分であった。思考を求める問題（図の読み取り問題など）にも大きな課題が残った。 ○不可の学生はいなかったが、秀・優もゼロで、学習動機付けに課題があると考えられる。その改善を目指して指導したい。 ○試験問題については本年度と同程度の難易度、測定基準を実施したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教育課程の歴史的変遷による基礎的理解を深める部分と、現在の学校教育における教育課程の実践の部分の二つに大きく分けて授業を組み立てた。 ③特に後半は、この30年ぐらゐの教育課程の変化を踏まえて、学習者の主体的な学習を構築するという観点から、さまざまな答申や文書を検証し、また学生たちが自律的に教育課程を考えられるような実践を行った。 ④学生たちの意見交換を大事にするためにグループワークを積極的に取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価は、2度の小テストとレポートの合計点で行った。基礎的な知識を定着させる意味もあり、筆記試験を実施した。 ②成績は、90点以上が0名、80点以上90点未満が2名、70点以上80点未満が1名、60点以上70点未満が2名であった。他学科に比べれば、良好な結果といえるが、数が少ないので誤差の範囲かもしれない。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題について調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的まじめに取り組んだと思われる。しかし、こうして獲得した知識を具体的な実践に落とし込むことはまだまだ不十分である。 ④グループワークなどのアクティブラーニングを多く取り入れたが、教職課程も2年目となることもあり、学生も慣れてきたように思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は教職課程の科目であり、ほぼどの大学にでも共通するカリキュラムマップに沿っており、内容的な妥当性については問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的ではない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回は、これまでの学生の指摘を踏まえて発言などに留意をしたためか、特に否定的なコメントはなかったと判断する。基本的には毎回の授業後の感想によってその時々学生の評価を重視している。授業についての指摘があれば、その正当性の有無にかかわらず次回にフィードバックしている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今回は、これまでの学生の指摘を踏まえて発言などに留意をしたためか、特に否定的なコメントはなかったと判断する。基本的には毎回の授業後の感想によってその時々学生の評価を重視している。授業についての指摘があれば、その正当性の有無にかかわらず次回にフィードバックしている。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	浜谷 小百合

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は栄養教諭免許取得の必修科目である。受講動機は、「資格取得に必要である」100%であり、受講に対する意識が高いことがうかがえた。 ②初回時には、シラバスを用いて、オリエンテーションを行い、模擬授業の実施方法や必要な準備等について事前説明を行った。 ③授業では、グループワーク、模擬授業や意見交換の時間を取り入れ、参加場面の多い授業形態となるようにした。 ④授業中の学生たちの意欲関心を維持していくためにも学生各々の授業の理解度の状況を把握していく必要があると考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①最終成績は平均値は83.3（±5.1）であった。理想的レベル(おおむね80点以上)に全体の約56%が到達した。 ②今回の試験問題は、標準的な問題レベルであったため、ほぼ全員が標準的レベルに到達することができていた。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」との回答は平均値4.5であり、知識理解、技能表現について目標が達成されたと考えられる。 ④「図書館、インターネット利用」は少数であったため、図書館やインターネットの利用を促進していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、選択科目ではあるが、栄養教諭資格のための必須科目である。 ②DP,行動目標から見ての内容的妥当性 成績評価から、知識理解、技術表現については目標を達成されたが、思考判断、態度についてはやや達成された状況であった。しかしながら、学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の平均は4.0で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は4.5で、授業の内容は概ね良好であったと考えられる。次年度に向けては、シラバスの活用、講義のスライド等の工夫と十分な説明を行っていききたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の位置づけは栄養教諭免許状に必要な専門科目である。目標達成状況では、知識・理解、技術表現の面では目標は「達成された」状況であったが、思考判断、態度の面では、「やや達成された」状況であった。授業においては、質疑応答や発表の時間を確実に設定し、学生の積極的な発言や意見交流ができる工夫を行い、学生の思考判断、態度等の向上を図っていききたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	浜谷 小百合

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育実習事前事後指導	3～4	三期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は栄養教育実習前後に実施する科目であり、栄養教諭の免許状取得の必須科目である。「必修科目である」「関心のある内容である」は37.5%、「資格取得に必要である」は100%であり、資格取得への意識が高いことがうかがえた。 ②教育実習に向けて実習前においては査定授業に対する準備、実習後の振り返りと実習報告会をを中心にした授業構成とした。 ③授業では、実習に必要とされる実践的な演習を多く取り入れ、現職の栄養教諭を外務講師として招いて学生の教育実習に対する意欲を高めるようにしている。 ④教育実習に対する学生の意欲や授業の実践力を高めるような取り組みが引き続き必要である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①本科目の成績は平均値は88（±1.1点）であった。理想的レベル（おおむね80点以上）に全員がほぼ到達していると考えられる。 ②学生による授業評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「コミュニケーション力が表現力を高めることができた」は平均値が4.4で、「職業選択の参考になった」は4.5であった。知識理解、技能表現について目標が達成されたと考えられる。 ③授業に際し、「履修に際してシラバスの記載を参考にした」者、「あらかじめ授業の計画を立てた」者は全体の約50%以上であり、「この授業では、インターネットのホームページを検索し、利用した」者は全体の約60%であったことから、今後もシラバスを活用しつつ学生の授業への準備や復習内容が充実したものとなるようにしていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、選択科目ではあるが、栄養教諭資格のための必須科目である。 ②DP,行動目標から見ての内容的妥当性 成績評価から、知識理解、意欲関心については目標を達成したと考えられるが、思考判断に関してはやや達成された状況であった。しかしながら、学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表する、など、学生が参加する機会が設けられていた」の平均値は4.4、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均値は4.3で、学生が概ね主体的に授業に取り組むことができていたことがうかがえた。次年度においても、学生が主体的に授業に取り組める授業や課題提示の工夫を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、栄養教育実習に臨むために必要かつ栄養教諭免許状取得に関わる科目である。この科目の成績の到達度や学生自身による「到達度評価」、「授業の質の評価」等から見て、おおむね達成できたと考える。次年度も引き続き、授業内容の充実に努めていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	栄養学科
氏名	浜谷 小百合

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職実践演習（栄養教諭）	4	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は栄養教諭、養護教諭、英語教諭を目指すコースの学生が履修する科目である。受講動機については、「資格取得に必要である」の回答が100%であり、受講に対する意識が高いことがうかがえたが、「関心のある内容である」との回答は16.7%と低かった。 ②初回では栄養教育実習について振り返り、その振り返りをもとに各自の課題を検討し、自分の目指したい栄養教諭像について考える内容とした。 ③授業では、グループワークやグループ討論を取り入れた授業構成とし、自己のめざす教師像について考えを深めることができたようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本科目は各授業における集団討論やグループワークの積極的な参加態度や意欲、表現などについて評価を行った。 ②最終の成績は、平均点は87.3点（±8.1）点であり、標準的なレベルに到達していた。理想的なレベル（概ね80点以上）の者は全体の約78%であった。 ③「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」との回答の平均値は4.2で、「自分が学ぼうとする専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」との回答は4.0であり、知識理解や思考判断について目標が達成されたと考えられる。 ④「この授業では、インターネットのホームページを検索し、利用した」との回答は約83%と多かった。今後の授業においても利用の促進をしきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、栄養教諭資格のための必須科目である。 ②DP,行動目標から見ての内容的妥当性 成績評価から、知識理解、思考判断、技術表現については目標を達成されており、意欲関心、態度についてはやや達成された状況であった。学生は一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の回答の平均値は4.2であった」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」は平均値は4.0であった。「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は平均値は3.5であったことから、次年度に向けては、課題や学習の範囲の提示について十分な説明を行うようにしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	栄養教諭免許状に必要な専門科目の総括にあたる本科目の位置づけから、職業としての栄養教諭の理解や職業選択の際の参考になる内容が多い。思考判断、技能表現を含めた全体を通して、概ね目標を達成していたと考えられる。今後、専門職としての栄養教諭の在り方や職務の重要性について学生の関心意欲と理解の向上を図っていきたい。